

研究者情報

2 0 2 3 年 度

金沢学院大学・金沢学院短期大学

目 次

◇金沢学院大学

学長(大学)	p. 1
副学長(大学)	p. 2
学長(短大)	p. 4
文学部	p. 6
教育学部	p. 18
経済学部	p. 29
経済情報学部	p. 39
芸術学部	p. 46
スポーツ科学部	p. 54
栄養学部	p. 64
基礎教育機構	p. 72

◇金沢学院短期大学 p. 76

- 現代教養学科
- 食物栄養学科
- 幼児教育学科

◇大学院担当教員 p. 89

◇教員索引

氏名(五十音順)	p. 90
--------------------	-------

金沢学院大学 学長

(Minoru Akiyama)

教授 **秋山 稔** 人文学研究科担当



担当科目 : 日本文学概説Ⅰ・Ⅱ、金沢まち学 他

出身学校 : 慶應義塾大学

学位 : 博士(文学) 慶應義塾大学

所属学会 : 日本近代文学会 昭和文学会 泉鏡花研究会 室生犀星学会

E-mail : akiyama@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇『泉鏡花俳句集』(2020・11、紅書房) ◇岩波文庫『歌行燈』(2017. 6) ◇『泉鏡花 転成する物語』(2014. 4、梧桐書院) ◇「帰郷小説としての『縷紅新草』」(「昭和文学研究」64集、2012. 3)
- ◇「自然主義と鏡花」(「解釈と鑑賞」2009. 9) ◇「勝手口から戦場へー泉鏡花『勝手口』試論」(「日本近代文学」第七十九集、2008. 11) ◇『室生犀星事典』(2008. 9、鼎書房) ◇『新編泉鏡花集』第1巻〈金沢一〉、第2巻〈同二〉、第9巻〈北陸〉(2003. 10、2004. 2、2004. 4、岩波書店) ◇『徳田秋聲金沢シリーズ 郷里金沢』『同 挿話・町の踊り場』『同 感傷的の事』(2005. 8、2005. 12、2006. 3、能登印刷出版部)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

泉鏡花・徳田秋聲を視点として近代文学史を再検討すること。

金沢学院大学 副学長

(Yukio Suido)

教授 **水洞 幸夫** 人文学研究科担当



担当科目 : 地域と文学 a・b、近・現代文学演習 C、創作実践

出身学校 : 金沢大学

学 位 : 文学修士

所属学会 : 日本近代文学会

E-mail : suido@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「芥川龍之介『鼻』論」(『金沢学院大学紀要第9号』文学・美術・社会学編 2011年3月)
- ◇「芥川龍之介『羅生門』論—下人が盗人になる理由—」(『金沢大学国語国文34号』2009年3月)
- ◇「太宰治『家庭の幸福』論—ラジオ的な〈幸福〉を超えて—」(『太宰治研究16号』2008年6月)
- ◇「芥川龍之介『疑惑』試論—沈黙する「私」を超えるドラマ—」(『金沢学院大学紀要第6号』文学・美術・社会学編 2008年3月)
- ◇「芥川龍之介『お富の貞操』試論—〈可哀さう〉の射程—」(『金沢学院大学紀要第4号』文学・美術編 2006年3月)
- ◇「芥川龍之介『六の宮の姫君』試論」(『金沢学院大学紀要第3号』文学・美術編 2005年3月) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本近代文学。特に大正期の散文作品を中心に、その享受史も考慮しつつ、作品の新しい〈読み〉をさぐる。

金沢学院大学 副学長

(Hideki Fujii)

教授

藤井 秀樹

経営情報学研究科(M・D)担当



財務会計Ⅰ・Ⅱ、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ、会計学各論

担当科目 : Ⅰ・Ⅱ、財務諸表分析特論他

出身学校 : 京都大学, 京都大学大学院

学位 : 京都大学博士(経済学)

所属学会 : 日本会計研究学会, 国際会計研究学会, 財務会計研究学会、

グローバル会計学会, 公益事業学会, 日本地域資源開発経営学会 他

E-mail : fujii@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

著書

- ① 『現代企業会計論』森山書店、1997年(日本会計研究学会太田・黒沢賞受賞)。
- ② 『制度変化の会計学』中央経済社、2007年(国際会計研究学会賞、日本公認会計士協会学術賞受賞)。
- ③ IFRS in Global World: International and Critical Perspective on Accounting, Springer, 2016, Co-Authored.

論文

- ① 「取得原価主義会計における未来事象と利益測定(1)(2・完)ー減価償却を素材としてー」『会計』第147巻第3・4号, 1995年3・4月(日本会計研究学会賞受賞)
- ② 「非営利組織の制度進化と新しい役割」『非営利法人研究学会誌』Vol. 8, 2006年7月(非営利法人研究学会賞受賞)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ① 会計基準の国際統合
- ② 非営利組織の会計と経営

金沢学院短期大学 学長

(Takeshi Takata)

教授 **高他 毅**



担当科目 : 社会学Ⅰ・Ⅱ、情報社会論、現代社会とキャリア、社会心理学、教育原理、道德教育・特別活動及び総合的な学習の研究、就業力基礎、学修ゼミⅡ（地域課題）、学修ゼミⅢ（卒業研究）

出身学校 : 東京大学文学部

学 位 : 学士

所属学会 :

E-mail : t-takata@kanazawa-gu.ac.jp

Ⅰ. 主な研究業績・作品等

- ◇ 「宗教はポスト・モダンを担いうるか」(共著、中央公論新社「中央公論」第100巻第2号 pp206-233)
- ◇ 「俵夫と軍人と教師と交換経済 —『無法松の一生』において表象された近代と『國民』の未生—」(金沢学院短期大学紀要第16号 pp7-28)
- ◇ 「TVの黄金時代」におけるTV未所有者たち —若年独身離郷者の大都市滞留とメディア—(金沢学院短期大学紀要第18号 pp17-48)
- ◇ 高倉健の猥褻な肉体 —侠客と母と民衆と戦後平和主義の臨界点—
(金沢学院短期大学紀要「学葉」第21号 (vol.64) 2023)

Ⅱ. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

戦後日本の人口移動と文化状況の関連性

◇金沢学院大学

- 文学部
- 教育学部
- 経済学部
- 経済情報学部
- 芸術学部
- スポーツ科学部
- 栄養学部
- 基礎教育機構

金沢学院大学 文学部

学部長 薮 際子

	教授	准教授	講師	助教
文学科	秋山 稔 *日	上田外史彦 *英	大上 真礼 *心	
	石崎 建治 *歴	菊池 英慈 *日	黒崎 周一 *歴	
	薮 際子 *日	佐々木 聡 *歴	高橋 栄一	
	水洞 幸夫 *日	松村祐香里 *英	出口 誠 *日	
	寺田 智美 *日	室橋 弘人 *心	戸根比呂子 *歴	
	○中崎 崇志 *心		中妻 結 *英	
	中島 彰史 *英 (特任)		水橋 雄介	
	羽鳥 好之(特任)		R. グラッシ *英	
	坂東 貴夫 *英			
	本多 俊彦 *歴			
	前川 浩子 *心			

○ : 学科長

(五十音順)

*日 日本文学専攻

*英 英米文学専攻

*歴 歴史学専攻

*心 心理学専攻

(Kenji Ishizaki)

教授

石崎 建治

人文学研究科担当



日本史概説Ⅰ、古文書学演習Ⅰ、古代・中世史演習Ⅰ・Ⅱ
担当科目 : プレ卒業研究演習、文献資料研究Ⅱ、卒業研究、日本歴史文化学特論Ⅰ・Ⅱ 他
出身学校 : 早稲田大学
学 位 : 文学修士 (早稲田大学)
所属学会 : 日本歴史学会 日本古文書学会 史学会 他
E-mail : ishizaki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「織田信長『麟』字型花押の含意」(『日本歴史』第664号 2003年9月)◇「本能寺の変と上杉景勝」(『日本歴史』第685号、2005年6月) ◇「室町幕府徳政令発布時における礼銭礼物と分一銭の関係」(『古文書研究』第57号、2003年5月) ◇「中世東国社会における永楽通宝選好性の一要因」(『金沢学院大学紀要』文学・美術・社会学編第6号 2008年3月)◇「『謙信公御書集』の史料的性格に関する一考察」(『金沢学院大学紀要』文学・美術・社会学編第8号 2010年3月)
◇「貨幣を教材・主題とした高等学校地理歴史科・中学校社会科授業の実践的研究(Ⅰ)」(『金沢学院大学紀要』第15号 2017年3月)◇「上洛直後の織田信長と足利義昭」(『日本歴史』第846号、2018年11月)◇「本能寺の変と細川氏の進退」(『日本歴史』第863号 2020年4月)『加賀藩御算用者猪山直之日記』(時鐘舎 2010年10月) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本中世政治史 日本中世社会における貨幣流通 加賀藩武家社会研究 「叡山文庫」所蔵資料を中心とした中近世移行期近江坂本の復元的研究(令和2年度科研費基盤研究(C)採択課題)

(Kiwako Shitomi)

教授

蒨 際子

人文学研究科担当



近・現代文学演習B、近・現代文学特殊講義B、現代文章
担当科目 : 論 創作入門、プレ卒業研究演習、卒業研究 他
出身学校 : お茶の水女子大学
学 位 : 文学修士
所属学会 : 日本近代文学会 日本文学協会
E-mail : kiwako@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「宇野浩二『子の来歴』の後景-『新作三十三人集』から-(1)(2)」(『金沢学院大学紀要』19、20、2021-22) ◇『[新編]日本女性文学全集 第9巻』解説(曾野綾子・林京子・宮尾登美子)2019◇「宇野花野(浩二)の少女小説-「少女画報」掲載作から」(『金沢学院大学紀要』16、2018)◇「水芦光子のミステリー小説-『鷹』・『水の花火-加賀藩噴水考-』の周辺-」(『金沢学院大学文学部紀要』11、2013)
◇『金沢を描いた作家たち』共著、2011◇「一つのマリリン理解-曾野綾子『砂糖菓子が壊れるとき』」(『金沢学院大学紀要』8、2010) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

① 宇野浩二を視座とした近代文学研究 ②曾野綾子、水芦光子ら、金沢ゆかりの女性作家研究

(Tomomi Terada)

教授

寺田 智美

人文学研究科担当



日本語学概説Ⅰ・Ⅱ、日本語教育学Ⅰ・Ⅱ、日本語学演習、
 担当科目 : 日本語学特殊講義、日本語文法Ⅰ・Ⅱ、日本語教授法、日
 本語教育実習、キャリアプランニングⅠ・Ⅱ、卒業研究
 出身学校 : 早稲田大学
 学 位 : 修士(教育学)(早稲田大学)
 所属学会 : 日本語学会 日本語教育学会 日本国語教育学会 全国
 大学国語教育学会 他
 E-mail : teradato@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『三省堂国語辞典 第八版』(執筆協力、三省堂、2022.1) ◇ 「エントリーシートの推敲支援を通じた文章指導の実践」(早稲田大学日本語学会編『早稲田大学日本語学会設立60周年記念論文集 第2冊 言葉のはたらき』、2021.12、ひつじ書房) ◇ 「研究ノート『方言修行 金草鞋』を読み解く—十返舎一九が描いた石川県—」(『金沢学院大学教育センター紀要』第2号(2018.3))
 ◇ 「文学の映像化作品を使った文章表現指導の試み—劇場用アニメ『銀河鉄道の夜』の1シーンを描きだす—」(『金沢学院大学紀要』第15号(2017.3)) ◇ 『新明解類語辞典』(執筆協力、三省堂、2015.8) ◇ 「代名詞の史的変遷」(『品詞別学校文法講座 第2巻 名詞・代名詞』、明治書院、2014.2)
 ◇ 『三省堂国語辞典 第七版』(執筆協力、三省堂、2013.12) ◇ 『『厚生新編』翻刻とノート(1)』(『金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編』第10号(2012.3)) ◇ 「高校留学生に対する日本語教育の問題と課題」(『金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編』第9号(2011.3)) ◇ 「〈日本事情〉教材に描かれる〈日本〉」(『金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編』第8号(2010.3))

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

近代日本語 言語教育

(Takashi Nakazaki)

教授

中崎 崇志

人文学研究科担当



心理学概論A、学習・言語心理学、知覚・認知心理学、神
 担当科目 : 経・生理心理学、心理学実験Ⅰ・Ⅱ、認知学習心理学演習
 Ⅰ・Ⅱ、学修基礎Ⅰa・b
 出身学校 : 金沢大学
 学 位 : 博士(文学)(金沢大学)
 所属学会 : 日本心理学会、教育システム情報学会
 E-mail : nakazaki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 「大学の教員養成メソッドへの認知心理学的視点からの提案」(『金沢学院大学教職センター紀要』第3号 2019年) ◇ 「陶芸における「菊練り」の習得を目指した教育プログラムの開発—「菊練り」動作の解析の観点から—(共著『金沢学院大学紀要』第17号 2019年) ◇ 「意思決定過程研究へのオペラント変動性の視点の導入」(『金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編』第9号 2011年) ◇ 「変動性研究の新しい方向性を探る:創造性,意思決定,動機づけとの関連」(『金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編』第8号 2009年) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ① 得済みの行動の遂行中に起こるエラーとその原因の分析 ② 同じ目的のために、行動のバリエーションをどれくらい持てるか ③ 注意の配分と、情報処理および行動調整の関係

(Ayahumi Nakajima)

特任教授

中島 彰史

人文学研究科担当



担当科目 : 英語学演習、言語学特論Ⅰ・Ⅱ、英語学特論Ⅰ・Ⅱ

出身学校 : 名古屋大学

学 位 : 文学修士

所属学会 : 日本言語学会 日本英語学会 日本認知言語学会

E-mail : nakajima@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「英語の to 不定詞補文と ing 補文」(『金沢学院大学紀要』第 16 号 2018 年)◇「英語の句動詞における不変化詞の意味論」(『金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編』第 7 号 2009 年 3 月)
- ◇「コーパスデータに基づく英語心理動詞の分析」(『金沢学院大学紀要 文学・美術編』第 3 号 2005 年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

言語の形態構造や文法構造と意味・概念構造との間にいかなる関連性があるのかを類型論的に研究している。

(Yoshiyuki Hatori)

特任教授

羽鳥 好之



担当科目 : 創作入門、現代文章実践 他

出身学校 : 早稲田大学

学 位 : 修士

所属学会 :

E-mail : hatori@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇『尚、赫々たれ 立花宗茂残照』(2022 年 早川書房刊)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

書籍編集、雑誌編集、歴史小説 歴史エッセイ等



(Takao Bando)
教授 **坂東 貴夫** 人文学研究科担当

英語プレゼンテーション初級Ⅰ・Ⅱ、資格英語Ⅱ・Ⅲ、言

担当科目 : 語習得研究Ⅰ・Ⅱ、英語学講読Ⅰ・Ⅱ、英語文法論Ⅰ・Ⅱ、英語学演習Ⅰ・Ⅱ 他

出身学校 : 名古屋大学

学位 : 博士(学術)

所属学会 : 外国語教育メディア学会 大学英語教育学会 全国英語教育学会

E-mail : bando@kanazawa-gu.ac.jp

Ⅰ. 主な研究業績・作品等

◇「英文処理における各情報間の優先度—動詞下位範疇化情報と D0-plausibility について—」(『環太平洋第二言語研究フォーラム 2016 論文集』2017年) ◇「補文標識 that の利用と補文主語の長さの関係」(『中部地区英語教育学会紀要 Vol. 46』2017年) ◇“The Influence of Verb Subcategorization Information and the Complementizer *that* on Sentence Processing by Japanese Learners of English as a Foreign Language.” (*JACET Journal*, Vol. 55, pp. 1-17, 2012)

Ⅱ. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

『単語の不自然な組み合わせが統語構造の学習を促進するか』『読解実験に基づく文法的誤りの客観的評価』



(Toshihiko Honda)
教授 **本多 俊彦** 人文学研究科担当

担当科目 : 日本史概説Ⅱ、文献資料研究Ⅰ、古文書学演習Ⅱ、近世史演習Ⅰ・Ⅱ、近代史演習Ⅰ、キャリアデザインⅡ・Ⅲ、プレ卒業研究演習、卒業研究、地域歴史学特論Ⅰ・Ⅱ、特論演習

出身学校 : 富山大学大学院人文科学研究科

学位 : 修士(文学)

所属学会 : 日本古文書学会、日本史研究会、地方史研究協議会、加能地域史研究会 他

E-mail : t-honda@kanazawa-gu.ac.jp

Ⅰ. 主な研究業績・作品等

◇伊藤俊一等共編『東寺廿一口供僧方評定引付』第1～4巻、思文閣出版、平成14～31年◇「加賀藩知行宛行状の古文書学的検討」、『加能地域史』第56号、平成24年◇「加賀藩における本多政重登用の再検討」、『高岡法科大学紀要』第26号、平成27年◇「福井藩の知行宛行状について」、『古文書研究』第80号、平成27年◇「前田利常後見期の加賀藩知行宛行状について」、湯山賢一編『古文書料紙論叢』勉誠出版、平成29年◇「青地家伝来の織田氏発給文書について」、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』79号、平成29年◇「文書料紙調査の観点と方法」、小島浩之編『東アジア古文書学の構築—現状と課題—』、平成30年

Ⅱ. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

◇近世大名家関連文書の古文書学的検討◇「加賀八家」本多家伝来文書を中心とした加賀藩政史研究◇近世を中心として古文書料紙研究◇東寺旧蔵文書(国宝「東寺百合文書」など)を素材とした室町期政治史・寺院史研究

(Hiroko Maekawa)

教授

前川 浩子

人文学研究科担当



担当科目 : 心理学概論B、発達心理学、感情・人格心理学、教育・学校心理学、対人関係の心理学、心理学研究法Ⅱ、発達心理学演習Ⅰ・Ⅱ、心理演習、心理実習、プレ卒業研究演習、卒業研究、FSP 講座、キャリアデザインⅠ
出身学校 : 慶應義塾大学
学 位 : 博士(教育学)
所属学会 : 日本心理学会 日本教育心理学会 日本発達心理学会
日本パーソナリティ心理学会 日本双生児研究学会 他
E-mail : maekawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇前川浩子・宗田美紗, 大学生の就職後の見通しに関する研究—楽観性・悲観性および大学生生活の充実感からの検討—, 金沢学院大学紀要, 第21号, 139-149, 2023. 前川浩子, 対人関係療法の可能性: 思春期への支援, 最新精神医学, 第26巻, 493-499, 2021. Kathleen M. Pike, Mirai So, Anja Hilber, Hiroko Maekawa, Tomoko Shimanouchi, Denise Wilfley, Faith-Anne Dohm, Christopher G. Fairburn, & Ruth Striegel Weissman, Risk factors for anorexia nervosa and bulimia nervosa in Japan and compared to a U.S. sample, International Journal of Eating Disorders, 54, 2021. ◇前川浩子・此川美穂, 育児ソーシャルサポートと夫婦関係が子どもに対する養育に与える影響——妻から夫への愛情を媒介として——, 金沢学院大学紀要, 第19号, 113-121, 2021. ◇陶芸における「菊練り」の習得を目指した教育プログラムの開発—「菊練り」動作の解析の観点から—, 金沢学院大学紀要, 第17号, 180-189, 2019. ◇「子どもにおけるやせ願望の背景(『子どもと発育発達』第14号, 203-209, 2016年) ◇「どうして他人と比べるのをやめられないのか?(松本俊彦・岩室紳也・古川潤哉(編)(『こころの科学 中高生からのライフ&セックスサバイバルガイド』, 日本評論社, 30-37, 2016年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

重要な他者とのコミュニケーションの良好さと精神的健康との関連 短大・大学卒業後の就労継続に関する要因の検討 幼児期におけるきょうだいに対する親の養育の異同と子どもの社会性の関連

(Toshihiko Ueda)

准教授

上田 外史彦

人文学研究科担当



担当科目 : 基礎英語Ⅰ、基礎英語Ⅱ、英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ
出身学校 : 福井大学
学 位 : 修士(教育学)
所属学会 : 日本英語教育学会、中部英語教育学会
E-mail : t-ueda@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「現在進行形の指導例」東京書籍 大下邦幸編著『コミュニケーションクラスの理論と実践』, 2001
◇「入門期における英語科探究活動についての考察」福井大学教育実践研究(30), 51-56, 2005
◇「移行期間に取り組むこと」東洋館出版社 外国語活動・外国語科実践研究会編著『基本が分かる外国語活動・外国語科の授業』, 2019

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

「英語授業におけるインタラクション分析」「言語活動を通じた英語コミュニケーションの資質能力の育成」など

(Eiji Kikuchi)

准教授 **菊池 英慈**



日本語表現法Ⅰ、日本語表現法Ⅱ、評論の読み方、国語科

担当科目：教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅱ、書道(書写実習)、日本文学入門、プレ卒業研究演習、卒業研究

出身学校：茨城大学

学位：学士

所属学会：日本国語教育学会

E-mail：kikuchi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「主体的に学習に取り組む態度をいかに評価するか」(明治図書、2022) ◇「資質・能力を育成する小学校国語科授業づくりと学習評価」(明治図書、2021) ◇「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」作成協力者(国立教育政策研究所2020) ◇「小学校学習指導要領解説国語編」作成協力者(文部科学省、2019) ◇「資質・能力の育成－『見方・考え方』を働かせることを通して－」(東洋館出版、2019) ◇「『言葉による見方・考え方』の捉え方・鍛え方」(明治図書、2019) ◇「学習の基盤となる言語能力の育成－言語活動の充実－」(東洋館出版、2019) ◇「新学習指導要領に向けた指導の在り方 語彙指導の改善・充実の在り方」(東洋館出版、2018) ◇「国語科におけるICTを活用した教育の充実」(東洋館出版、2018) ◇「資質・能力の育成に向けた授業づくり」(東洋館出版、2018)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

各教科の基盤となる言語能力を核にしたカリキュラム・マネジメントの研究
個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す国語科授業の再検討

(Satoshi Sasaki)

准教授 **佐々木 聡** 人文学研究科担当



東洋史概説Ⅰ・Ⅱ、東洋史文献講読Ⅰ・Ⅱ、東洋史演習Ⅰ・Ⅱ、

担当科目：東洋史特殊講義、プレ卒業研究演習、卒業研究、学修基礎Ⅰa・b、FSP講座、アジア歴史文化学特論Ⅰ・Ⅱ、特論演習

出身学校：金沢大学、東北大学大学院

学位：博士(文学)

所属学会：北陸史学会 東アジア恠異学会 日本中国学会 日本道教学会 東方学会

E-mail：s-sasaki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「中国歴代王朝における天文五行占書の編纂と禁書政策」(水口拓寿編『術数研究の課題と方法』汲古書院、2022年) ◇「ベトナム阮朝における天文五行占の受容と禁書政策」(水口幹記編『前近代東アジアにおける〈術数文化〉』勉誠出版、2020年) ◇「異と常：漢魏六朝における祥瑞災異と博物学」(東アジア恠異学会編『怪異学の地平』臨川書店、2018年) ◇『復元白沢図：古代中国の妖怪と辟邪文化』(白澤社、2017年) ◇「『礼緯含文嘉・精魅篇』的辟邪思想与鬼神観」(中国語、『復旦学報(社会科学篇)』2014年・第5期) ◇「『開元占経』の諸抄本と近世以降の伝来について」(『日本中国学会報』第64集、2012年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

儒教理念の一つである祥瑞災異思想を背景とした占術文化の研究。特に、中国歴代王朝における統制管理と社会受容の実態、東アジア諸国への伝播状況などについて。

(Yukari Matsumura)

准教授

松村 祐香里

人文学研究科担当



担当科目 : 英米文学概論 I、英米文学講読 I・II、英米文学演習 I 他
出身学校 : 慶應義塾大学文学部、慶應義塾大学大学院文学研究科
学 位 : 修士 (文学)
所属学会 : 日本英文学会 日本ミルトン協会 十七世紀英文学会
E-mail : y-matsumura@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「現世の鏡として—Paradise Lost におけるエデンの園と地獄の共通点—」『金沢学院大学紀要』18号 (2020) ◇「The Reprobate in Paradise Lost : Milton's Satan and the Crisis of Conscience」(慶應義塾大学大学院文学研究科英米文学専攻 『Colloquia』), 35 (2014) ◇「『失樂園』における無常観—スペンサーとの比較を通して見る自由意思の重要性」、『藝文研究』(慶應義塾大学藝文学会)、112 (2017)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ジョン・ミルトンの『失樂園』を中心に、17世紀イギリスの文学を研究しています。楽園の表象や無常観を読み解くことで、宗教的にも政治的にも大きく変動した17世紀のイギリスを生きた人々のメンタリティーを明らかにしたいと考えています。

(Hiroto Murohashi)

准教授

室橋 弘人

人文学研究科担当



心理学概論 A、心理学統計法 I・II、社会・集団・家族心理学、産業・組織心理学、心理学研究法 I、心理学実験 I 社会心理学演習 I・II、FSP 講座、キャリアデザイン I 他
出身学校 : 早稲田大学
学 位 : 博士 (文学)
所属学会 : 日本心理学会 日本教育心理学会 日本行動計量学会 他
E-mail : murohashi@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

◇”Trajectories of Early Television Contact in Japan: Relationship with Preschoolers' Externalizing Problems.” (Journal of Children and Media 9(4), 2015 年) ◇”Model Specification Search Using a Genetic Algorithm with Factor Reordering for a Simple Structure Factor Analysis Model.” (Japanese Psychological Research 49(3), 2007 年) ◇「構造方程式モデリングによる一対比較法の分析—シェッフエの方法とその改良—」(心理学研究 75 (4), 2004 年) ◇「縦断データの分析 I—変化についてのマルチレベルモデリング—」(分担翻訳、朝倉書店、2012 年) ◇「新・発達心理学ハンドブック」(分担執筆、福村出版、2016 年) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

青少年の発達に関する繰り返し測定データの分析、機械学習の心理学への応用

(Maaya Ooue)

講師 **大上 真礼** 人文学研究科担当



担当科目 : 臨床心理学概論、心理学的支援法、心理的アセスメント、関係行政論、臨床心理学演習、プレ卒業研究演習、卒業研究
出身学校 : 東京大学, 東京大学大学院教育学研究科
学 位 : 博士 (教育学)
所属学会 : 日本心理学会, 日本心理臨床学会, 日本感情心理学会 他
E-mail : ooue@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇男女で「女子力」という言葉のとらえ方は異なるか—「女性における女子力の高さ」の意味内容と性差の検討— 日本語とジェンダー, 20. (印刷中) (共著)
- ◇「むなしさ」から探る高齢者の生きがい感向上へのヒント—社会および家族の場面に着目して— 生きがい研究, 26, 55-70, 2020.
- ◇ディタッチト・マインドフルネスの促進を目的としたゲーム・アプリケーションの可能性の検討—アプリの開発と実証試験を通して— マインドフルネス研究 2(1), 1-7, 2017. (共著)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

高齢者が感じる「むなしさ」について 大学院生のメンタルヘルス、若者の「女子力」への態度

(Shuichi Kurosaki)

講師 **黒崎 周一** 人文学研究科担当



担当科目 : 西洋史概説 I・II、西洋政治史、西洋史特殊講義、西洋史文献講読 I・II、西洋史演習 I・II、プレ卒業研究演習、卒業研究
出身学校 : 明治大学大学院
学 位 : 博士 (史学)
所属学会 : 日本西洋史学会 社会経済史学会 歴史学会
E-mail : kurosaki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇『ホメオパシーとヴィクトリア朝イギリスの医学—科学と非科学の境界』刀水書房 2019年◇「ハーネマンとは何者か?—ヴィクトリア朝イギリスにおけるホメオパシーの受容と再構築」『駿台史学』第158号, 2016年◇「医療は科学と呼べるのか?: ヴィクトリア朝イギリスにおける治療の『法則性』をめぐって」『駿台史学』第155号, 2015年
- ◇「医学における「正統」と「異端」: ヴィクトリア朝イギリスのホメオパシーを事例として」『西洋史学』第254号, 2014年。

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ヴィクトリア朝イギリスにおける科学と非科学の境界設定

(Eiichi Takahashi)

講師 **高橋 栄一**



担当科目 : 人文地理学概説 I・II、地誌、社会科・地歴科教育法、教職実践演習、特別活動と総合的な学習の時間の理論と実践

出身学校 : 東京学芸大学

学 位 : 修士 (教育学)

所属学会 : 日本地理学会 日本地理教育学会 日本グローバル教育学会 学芸地理学会 石川地理学会

E-mail : e-takahasi @kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「草津本白根火山の地形地質と植物群落」◇「野外における子どもの空間認知構造に関する研究」—水平・垂直距離の場合—◇「白山麓におけるスキー場を中心とした観光開発から通年リゾートへ」◇「新しい高校地理のスコープとシークエンスをめざして」◇「地理教育の活性化を考える : 文系科目としての高校「地理」の成熟を目指して」◇「異文化研究」カリキュラム開発—SGH, 研究課題「異文化研究」実践報告—◇「地形と地形図の学習に関する授業方法の一試案～立体模型・3Dソフトを有効利用した授業の試み～」

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

・効果的なアクティブラーニングを取り入れた社会科授業実践方法の研究。・高等学校における総合的な探求の時間の実践方法の研究。・新指導要領に基づく高等学校地理歴史科の新科目のスコープとシークエンス。・ society5.0 時代の双方向の活動を重視した授業の研究。・教員養成に資する効率的な指導方法の研究

(Makoto Deguchi)

講師 **出口 誠** 人文学研究科担当



担当科目 : 日本文学入門、古典文学演習、古典文学講読 I・II、漢文学講読 I・II、日本文学史 I、古典文学特殊講義、プレ卒業研究演習、卒業研究、日本文学演習 (修士)、和漢比較文学特論 I・II (修士)

出身学校 : 筑波大学大学院人文社会科学研究科

学 位 : 博士 (文学)

所属学会 : 中古文学会、和漢比較文学会、説話文学会、北陸古典研究会、筑波大学日本語日本文学会

E-mail : m-deguchi @kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「一条朝の聖代——平安朝漢文学における「聖代」の展開——」(『中古文学』108号, 2021年) ◇「平安朝漢詩文における太公望像」(『日本語と日本文学』65号, 2020年) ◇「大江匡衡「申弁官左右衛門権佐大学頭等状」考——延喜・天曆聖代と文道——」(『和漢比較文学』61号, 2018年) ほか

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

平安時代中後期の紀伝道文人の研究、および天神信仰の研究

(Hiroko Tone)

講師

戸根 比呂子

人文学研究科担当



担当科目 : 考古学概説Ⅰ・Ⅱ、考古学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、考古学実習Ⅰ・Ⅱ、文化財の保護と活用、考古学特殊講義、プレ卒業研究演習、卒業研究、日本考古学特論Ⅰ・Ⅱ(修士)、特論演習(修士)

出身学校 : 京都大学、京都大学大学院文学研究科

学位 : 修士

所属学会 : 石川考古学研究会、日本玉文化学会、江沼地方史研究会、文化財写真技術研究会

E-mail : tone@kanazawa-gu.ac.jp

Ⅰ. 主な研究業績・作品等

◇「『東海系』の玉の流通」(『玉文化』第5号 日本玉文化研究会 2008年) ◇「弥生時代玉文化研究の展望」(『玉文化』第10号 日本玉文化研究会 2013年) ◇「七観古墳出土の玉」(『七観古墳の研究—1947年・1952年出土遺物の再検討—』(平成19～21/22～24年度科学研究費補助金(若手研究(B)/(A))研究成果報告書) 京都大学大学院文学研究科 2014年) ◇「片山津玉造遺跡の研究の現状と課題」(『加賀・能登王墓の世界』石川県立歴史博物館 2016年) ◇「北陸における弥生時代の玉研究」(『考古学ジャーナル』No.739 2020年) ◇「玉つくり研究と地域の視点—北陸における研究の現状と課題—」(『北陸と世界の考古学(日本考古学協会2021年度金沢大会資料集)』2021年)

Ⅱ. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

弥生・古墳時代の玉類の生産と流通、碧玉原石産地遺跡の考古学的研究

(Yui Nakatsuma)

講師

中妻 結



担当科目 : 原典講読Ⅰ・Ⅱ、Advanced EnglishⅠ・Ⅱ、English DiscussionⅠ・Ⅱ、基礎英語Ⅰ・Ⅱ

出身学校 : 東京女子大学

学位 : 博士(人間文化科学)

所属学会 : 日本英文学会、ディケンズ・フェロウシップ

E-mail : nakatsuma@kanazawa-gu.ac.jp

Ⅰ. 主な研究業績・作品等

◇London and Literature, 1603–1901. (共著). Newcastle upon Tyne: Cambridge Scholars Publishing. 2017.

◇“Japanese Neo-Victorian Fictions: Looking Back at the Victorian Age from Japan.” Neo-Victorian Studies. 11:2 (18–39). 2019.

◇“The Energy of Creating: The Conceptualised Framework and Its Illusion in John Fowles’ s The French Lieutenant’ s Woman.” 順天堂大学『順天堂グローバル教養論集』. 6: 59–71. 2021.

Ⅱ. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・イギリス・ヴィクトリア朝小説: 特に、チャールズ・ディケンズとジョージ・ギッシング
- ・ヴィクトリア朝を現代的視点で語る作品群: ネオ・ヴィクトリアニズム

(Yusuke Mizuhashi)

講師 **水橋 雄介**



担当科目 : 哲学と倫理、教育原論、教育原理、道徳教育論、フランス語 I・II
出身学校 : 大阪大学
学位 : 博士 (人間科学)
所属学会 : 西田哲学会、実存思想協会
E-mail : mizuhashi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「猫と歴史的世界 あるいはストレンジャーのポイエシス——アンリ・マルディネから西田幾多郎を読み直す——」、金沢学院大学紀要 (第 20 号)、2022 年 3 月
◇「感覚する現在 西田幾多郎 『自覚における直観と反省』におけるヘルマン・コーヘン受容をめぐる」、西田哲学会年報 (第 15 号)、pp. 126-141、2018 年 7 月
◇「述語とパースペクティブ——西田幾多郎『意識の問題』でのパースペクティブと衝動」、大阪大学人間科学研究科 共生学ジャーナル (第 2 号)、pp. 58-81、2018 年 3 月

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

明治以降の日本の哲学、特に西田幾多郎の哲学の研究

(Richard Grassi)

講師 **Richard Grassi**



担当科目 : English Communication I・II、English Writing、English Presentations I・II 他
出身学校 : University of San Jose
学位 : 人文学博士
所属学会 : CTSG
E-mail : grassi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇English Language textbooks— “Shift the Focus” “Felicity 2” “Felicity 1”
◇Humanities books— “Sketches of the Cotswolds” “A Scribbled Response”

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

“Let’s Eat Bugs” “Purpley-Pink House” (series of five children’s books)
“Goobee Da Loon” (series of three children’s books) “The ART of Presentation: Japanese Teacher Training Workshop”, Kanazawa

金沢学院大学 教育学部

学部長 多田 孝志

	教授	准教授	講師	助教
教育学科	小嶋祐伺郎 (特任) ○笠間 弘美 佐田東 彰 多田 孝志 田邊 俊治 山内 隆之	奥泉 敦司 木村 昭雄 谷口 卓 藤居 真路 藤井 徳子 村松 麻里 米川 泉子	小平 豊彦 (特任) 向田 識弘 森 舞 山口由美子 (特任)	枝元香菜子 栃原 華子

○：学科長

(五十音順)

(Yujiro Ojima)

特任教授 **小嶋 祐伺郎**



担当科目 : 初等教科教育法 (社会)、社会
出身学校 : 広島大学大学院 (学校教育専攻)
学 位 : 教育学博士
所属学会 : 日本国際理解教育学会、日本学校教育学会、日本道德教育学会、日本 E S D 学会
E-mail : o-yujiro@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『新社会科授業づくりハンドブック中学校編』(共著)(明治図書 2015)◇『グローバル時代の国際理解教育～理論と実践をつなぐ～』(共著)(日本国際理解教育学会 2010)◇『教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える報告書』(共著)(奈良教育大学国際交流留学センター 2017)◇『地球市民意識を育む道德性育成の実践的研究～多文化共生社会における市民性育成の視点から～』(単著)(奈良教育大学次世代教員養成センター紀要 2017)◇『事典 持続可能な社会と教育』(共著)(教育出版 2019)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

包摂的社会構築のための道德教育研究～他者と対話し価値をつくる道德授業の構築～

(Hiromi Kasama)

教授 **笠間 弘美**



担当科目 : 英語 I・II、英語学概論、英語文法論、英語表現 I・II 他
出身学校 : 龍谷大学/(米)セント・マイケルズ大学大学院
学 位 : MA (TESL)
所属学会 : 日本マンスフィールド[®]協会 大学英語教育学会 日本英語教育史学会 日本ニュージャーナリスト[®]学会
E-mail : kasama@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『マンスフィールド事典』(共著)文化書房博文社 2007年10月◇「'Life of Ma Parker'に見るマンスフィールドの孤独描写に関する一考察」『マンスフィールド研究』第11号日本マンスフィールド協会 2018年10月◇「A Review of the Leading Methods of Foreign Language Teaching Thus Far: Toward the English Education of the Future」『金沢学院大学紀要』第16号 2018年3月◇「中学校検定英語教科書に見る自動詞・他動詞の取り扱いに関する一考察ー教員養成と教員研修に活用する英語の背景知識の観点からー」『金沢学院大学教職センター紀要』第4号 2021年3月

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

① コーパス処理に基づく文学作品の文体研究 ② 英語教科書の国際比較など

(Akira Saito)

教授 **佐田 彰** 人文学研究科担当



担当科目 : 保育の心理学、幼児理解と教育相談、特別支援教育総論、
障がい児保育、障がい児教育 他
出身学校 : 日本大学法学部、上越教育大学大学院障害児教育研究科
学 位 : 修士
所属学会 : LD学会 行動分析学会 特殊教育学会
E-mail : a-saito@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇通常の学級に在籍する児童への特別支援学校のセンター的機能を通したわり算指導に関する一考察—認知アセスメントに基づく九九の自動化とわり算手順表の視覚教材を用いた指導—平成31年2月、『LD研究』第28巻第1号(111~132頁) ◇算数障害を有する児童に対する九九の自動化のための学習支援—認知特性と九九のつまずきの分析から—,平成30年3月、『上越教育大学研究紀要』第37巻第2号,上越教育大学(371~383頁) ◇強い反抗性を示すADHD児の問題行動と学級全体の問題行動に対する支援—クラスワイドな支援と個別支援を組み合わせた支援過程の妥当性—,平成29年5月、『LD研究』第26巻,第2号,日本LD学会(253-269頁) ◇計数行動が困難な自閉症スペクトラム障害児に対する刺激等価性を用いた指導,平成30年3月、『金沢学院大学教職センター紀要』第1号,金沢学院大学(183-198頁) ◇自閉症スペクトラム障害のある幼児の不規則発言の減少と適切行動の増加,平成29年3月,上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要』第23巻,上越教育大学,(49~56頁)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

通常の学級における特別な支援を要する幼児児童生徒への支援 問題行動への支援 学習障害への支援

(Takashi Tada)

教授 **多田 孝志**



担当科目 : 国際理解教育概論、多文化理解概論 他
出身学校 : 東京学芸大学
学 位 : 博士(学校教育学)
所属学会 : 日本学校教育学会 日本国際理解教育学会 日本環境教育学会
E-mail : tada@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『地球時代の教育とは』(単著)(岩波書店、2000年) ◇『授業で育てる対話力』(単著)(教育出版、2011年) ◇『現代国際理解教育事典』(日本国際理解教育学会編、編纂委員長、明石書店、2012年) ◇『持続可能な社会のための教育』(佐藤学 諏訪哲郎 木曾功 多田孝志編著、教育出版、2015年) ◇『教育のいまとこれからを読み解く57の視点』(多田孝志編集代表、教育出版、2017年) ◇『グローバル時代の対話型授業の研究』東信堂 ◇『対話型授業の理論と実践』教育出版 ◇学校発3.0×SDGs 時代を生き抜く教育への挑戦(2020年) ◇新たな時代の教員養成(2020年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

新たな時代の教員・保育者養成の理論と実践

(Shunji Tanabe)

教授 **田邊 俊治**



担当科目 : 教育原理、教育経営概論、教師のキャリアデザイン 他
出身学校 : 筑波大学大学院博士課程 教育学研究科
学 位 : 教育学修士
所属学会 : 日本教育学会、日本教育行政学会、日本比較教育学会、
日本教育制度学会
E-mail : s-tanabe@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「ダイバーシティ社会の教育委員会」『時報市町村教委』No.302、全国市町村教育委員会連合会、2023年1月
◇「教育委員会の共創するウェルビーイング」『時報市町村教委』No.296、全国市町村教育委員会連合会、2022年1月
◇「コロナ禍での『未来型学び』の推進へ」『時報市町村教委』No.293、全国市町村教育委員会連合会、2021年7月
◇『新時代の教職入門』北國新聞社、2020年7月
◇“The challenging of teacher education at Graduate School: Towards refinement of teaching practice,” Vasil Haluzyak, et al. Sustainable Education as a Way of Bringing People Together: Multiple Stories from Europe, Spoleczna Akademia Nauk; LodzWarszawa, 2018

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

国内外の教育改革 学校組織デザイン 教育委員会制度に関する研究

(Yamauchi Takayuki)

教授 **山内 隆之**



担当科目 : 図画工作、初等教科教育法(図画工作) 他
出身学校 : 上越教育大学
学 位 : 修士
所属学会 : 日本学校教育学会
E-mail : yamauchi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇生活科総合的な学習単元研究 ◇学校防災

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

図画工作科研究、教育経営研究、総合的な学習、防災教育、危機管理

(Atsushi Okuizumi)

准教授 **奥泉 敦司**



担当科目 : 保育者論、保育インターンシップ 他
出身学校 : 埼玉大学、上越教育大学大学院
学 位 : 修士 (教育学)
所属学会 : 日本学校教育学会 教育哲学会 日本保育学会 日本教師教育学会 日本乳幼児教育学会 日本保育者養成教育学会 上越教育経営研究会
E-mail : okuizumi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇現職保育士・幼稚園教諭の研修に関する一考察 (共著) ◇教員養成における教育哲学の有用性に関する調査研究—学生は何を求め、何を学ぶのか— (共著) ◇養育場面における幼児の反応と批判的思考に関する実証的研究—「ほめる・叱る」行為における養育者の態度の考察を通して— (単著)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

◇保育者志望学生の教育観の形成過程に関する研究 ◇保育理論の思想史的変遷に関する研究
◇保育環境整備に関する政策変遷に関する研究

(Akio Kimura)

准教授 **木村 昭雄**



担当科目 : 教育課程論、生徒・進路指導論、総合的な学習の時間の指導法 他
出身学校 : 新潟大学教育学部、横浜国立大学大学院教育学研究科
学 位 : 修士
所属学会 : 日本学校教育学会
E-mail : ak-kimura@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『特別活動のための実践的ナビゲーションブック 特別活動Q&A 特別活動の問い 119 に応える』(共著) 横浜市立小学校特別活動研究会◇『教師力向上の鍵 メンターチームが教師を育てる、学校を変える!』(共著) 時事通信社◇「人材育成のためのチームングによるメンターチームマネジメント—K小学校の特別活動の指導を事例として—」(共著) 共創型対話学習研究所所報『未来を拓く教育実践学研究』第1号, pp. 109-116◇「社会に開かれた教育課程に関する一考察 —カリキュラム・マネジメントと総合的な学習の時間の実際—」(単著) 共創型対話学習研究所所報『未来を拓く教育実践学研究』第4号 pp. 70-79◇「いじめ事案への対応を通じた「チーム学校」による児童指導に関する一考察」(共著) 共創型対話学習研究所所報『未来を拓く教育実践学研究』第4号 pp. 101-112◇「障害をもつ子どもの通常学級への通学ニーズに応える「チーム学校」の運営に関する研究 —学校と地域との協働の事例を通して—」(共著) 金沢学院大学教職センター編『金沢学院大学教職センター紀要』第3号 pp. 67-94

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

実践と理論の往還による教育課程に関する研究及び、児童・生徒指導に関する研究

(Takashi Taniguchi)

准教授 **谷口 卓**



社会福祉、子ども家庭支援論、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、幼児理

担当科目 : 解と教育相談、子ども家庭福祉、子ども教育学基礎セミナーⅠ・Ⅱ、福祉心理学、卒業研究

出身学校 : 早稲田大学教育学部

学 位 : 教育学士

所属学会 : 社会政策学会、こども虐待防止学会

E-mail : t-taniguchi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇保育と子ども家庭福祉（共著、みらい、2019）
- ◇子ども家庭福祉（編著、青山社、2017）
- ◇福祉と養護（第2版）（共著、みらい、2016）
- ◇保育原理（共著、一藝社、2016）
- ◇実践から学ぶ児童虐待防止（編著、学苑社、2007）

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・コロナ前とコロナ後における子育てに関する意識調査
- ・児童虐待とAIとの学際的研究

(Shinji Fujii)

准教授 **藤居 真路**



担当科目 : 英語科教育法Ⅰ・Ⅱ、子ども教育学基礎セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、英語プレゼンテーション、英語Ⅰ・Ⅱ、卒業研究

出身学校 : 広島大学大学院教育学研究科後期課程

学 位 : 博士（教育学）

所属学会 : 中国地区英語教育学会、大学英語教育学会中国四国支部、小学校英語教育学会、日本教科教育学会、日本教育実践学会、日本教育学会、日本ナサニエル・ホーソン協会、日本キリスト教文学会、日本教育心理学会、発達心理学会、APA

E-mail : s-fujii@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇藤居真路(2020).「EFL ライティングにおける、授業目標とルーブリック評価、学習者の認知との関係」『中国地区英語教育学会誌』No.50, 103-115.◇藤居真路(2019).「教室英語の使用率増加と英語学習への態度との関係」『中国地区英語教育学会研究紀要』No.49, 75-85.◇藤居真路(2017).「Nathaniel Hawthorne の Dr. Heidegger's Experiment におけるプロットの展開と文体論的特徴」『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』No.14, 37-54.◇藤居真路(2016).「ナサニエル・ホーソンの「あざ」に見られる代名詞の特徴と話題展開について」『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』No.13, 107-124.◇藤居真路(2014).「英語教育における異文化理解と社会的比較の関係：高校1年生の調査結果から」『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』No.11, 112-129. 等

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ①英語教育におけるクラスルーム・リサーチ②文体論に基づく米文学研究③英語教育における情意面の研究

(Noriko Fujii)

准教授

藤井 徳子



担当科目 : 保育内容演習 (環境)、幼児と環境、初等教科教育法 (理科)、理科、保育内容総論 他
出身学校 : 神戸大学教育学部、放送大学大学院
学 位 : 学術修士
所属学会 : 日本環境教育学会、日本自然保育学会、日本保育学会
E-mail : n-fujii@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「保育者養成課程の学びにおける学生の困難感～学外実習の事前事後アンケート分析による検討～」, 富山福祉短期大学紀要, 第16巻第1号 pp. 23-30, 共著, 2021年10月◇「保育士養成課程の施設実習事前指導におけるアクティブ・ラーニング型授業の学習効果の検証」, 富山福祉短期大学紀要, 第15巻第2号 pp. 51-63, 共著, 2021年3月◇「学生による地域フィールドワーク研究助成事業実践報告「利賀の豊かな自然を活かした自然保育プログラムによる子育て支援」」, 富山福祉短期大学紀要, 第14巻第2号 pp. 35-43, 単著, 2020年12月◇「Why Does Forest Kindergarten not Spread in Japan」, The 10th World Environmental Education Congress, 単著, 2019年11月◇「大学・自治体・NPO 協働自然保育プログラムにおける保育者養成の効果」, 富山福祉短期大学紀要, 第13巻第2号 pp. 93-103, 共著, 2018年10月

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・乳幼児の非認知能力を育む自然保育プログラムの社会実装
- ・自然保育の教育効果とその検証
- ・自然保育のための保育者養成プログラムの開発

(Mari Muramatsu)

准教授

村松 麻里



英語 I・II 英語コミュニケーション I・II 初等教科英
担当科目 : 語教育法 小学校英語 海外英語教材比較研究 子ども教育学基礎セミナー I・II・III・IV 他
出身学校 : 早稲田大学 立教大学大学院
学 位 : 修士 (異文化コミュニケーション学)
所属学会 : 小学校英語教育学会 日本児童英語教育学会 日本学校教育学会 他
E-mail : m-muramatsu@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「英語教育における絵本の活用に関する考察—Real Books, Reading Schemes, ELT 絵本の比較分析を通して」『異文化コミュニケーション論集』第8号、pp. 57-72、2010年◇「小学校英語における絵本を再考する：絵本論の視点から」『小学校英語への専門的アプローチ：ことばの世界を拓く』綾部保志・編、春風社、pp. 140-153、2019年◇「小学校の言語教育における読み物の活用に関する一考察—アメリカの公立小学校の母語教育を事例として」『未来を拓く教育実践学研究』第4号、pp. 48-59、2020年◇「小学校外国語の文字学習における現代絵本の活用：第二言語習得の視点から」『金沢学院大学教職センター紀要第4号』金沢学院大学、pp. 277-292、2021年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

小学校英語教育、英語教育における絵本の活用

(Motoko Yonekawa)

准教授

米川 泉子



保育課程論、教育課程論、幼児と言葉、幼児と人間関係、
担当科目 : 保育内容指導法(言葉)、幼児・児童文化、保育内容演習(人間関係)、教育実習指導 I・II(幼) 他
出身学校 : 上智大学大学院
学 位 : 修士(教育学)
所属学会 : 日本保育学会 教育哲学会 関東教育学会 日本カトリック教育学会 絵本学会
E-mail : yonekawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「第 17 章 未来の社会に求められる資質とは?—異なる文化の他者とともに生きる」井藤元編『ワークで学ぶ教育学 増補改訂版』ナカニシヤ出版、216—229 頁、2020 年。◇「第 5 章 戦後の道徳教育はどう変化したのか?戦後～「特別の教科 道徳」まで」井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育 増補版』ナカニシヤ出版、57～69 頁、2020 年。◇「第 8 章 遊びによる総合的な保育」佐藤哲也編著『子どもの心によりそう保育内容総論 [改訂版]』、114～123 頁、2018 年、福村出版。◇「第 8 章 保育内容—遊びを通じての保育」佐藤哲也編著『子どもの心によりそう保育原理 [改訂版]』、96～107 頁、2018 年、福村出版 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

「遊びを通じた想像力の育成と人間性の涵養」「批評理論からする絵本の分析」

(Toyohiko Kohira)

特任講師

小平 豊彦



担当科目 : 初等教科教育法(体育) 他
出身学校 : 東京学芸大学
学 位 : 東京学芸大学学士
所属学会 :
E-mail : kohira@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「すぐに役立つ!! 体育指導資料集」◇「血中アミノ酸変化に及ぼす prolong exercise の影響について」◇地域に開かれた学校についての一考察～家庭・地域との連携・具体的事例～◇小学校体育の指導法に関する一考察～「表現遊び・表現」の実践研究を通して

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・小学校の学校現場ですぐに役立つ対応策など
- ・教育法規の観点
- ・身につけたい教員の常識 など

(Norihiro Mukaida)

講師 **向田 識弘**



教育方法・技術論(情報通信技術の活用含む)、情報モラル教育、ICT活用教育概論、教育課程と教育方法・技術、コンピュータ基礎演習、教職実践演習(幼・小・中)、総合的な学習の時間の指導法 他

担当科目 :
出身学校 : 広島大学大学院教育学研究科
学位 : 修士(教育学)
所属学会 : 日本産業技術教育学会, 日本教育工学会, 教育システム情報学会, 日本教科教育学会, AI時代の教育学会
E-mail : mukaida@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「他者の企画をもとに設計・制作するコンテンツのプログラミング学習の検討」, 日本産業技術教育学会中国支部第46回大会(広島)研究発表奨励賞, 2017年◇「教育のグローバル化に対応した先進的学校ICT環境の構築」, 広島大学学部附属学校共同研究紀要, 第44号, 巻なし, 広島大学学部・附属学校共同研究機構, pp113-122, 共著, 2016年◇「Proposal of learning method that leads to the optimal design in technology education」, Creating contexts for learning in Technology Education, Design And Technology Teachers Association, pp192-199, 共著, 2016年◇「技術科教員養成における大学と附属学校間での体系化した指導方法の検討」, 広島大学学部附属学校共同研究紀要, 第45号, P.111-122, 共著, 2017年◇技術704 文部科学省検定済教科書 中学校技術・家庭科用 技術・家庭 技術分野, 共著, 2021年◇「オンラインで拓く技術・情報教育の新しい可能性」, 共著, 日本産業技術教育学会, 2021年◇「問題解決能力の育成による農業への可能性(2)」, 『アグリバイオ』, 第6号, 73巻, pp.267-268, 単著, 2022年 等

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ICT利活用教育, ものづくり教育の方法と技術, デジタル教材開発に関する研究

(Mai Mori)

講師 **森 舞**



初等教科教育法(音楽)、音楽基礎、音楽演習、保育内容演習(表現)、幼児と表現 他

担当科目 :
出身学校 : 金沢大学大学院
学位 : 修士(教育学)
所属学会 : JPTA 日本ピアノ教育連盟
E-mail : mai-m@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『協働して音楽活動をする楽しさ』の探究とその指導法の一考察—バイエル連弾を通して— 2019年金沢学院大学紀要◇ピアノで効果音を加えた絵本の読み聞かせの実践と表現領域との関連性の一考察 2020年金沢学院大学紀要

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ①ピアノ初心者へのピアノ指導法
- ②幼児期の印象的な音楽体験の模索

(Yumiko Yamaguchi)

特任講師 **山口 由美子**



担当科目 : 算数、初等教科教育法 (算数)
出身学校 : 金沢大学
学 位 : 修士 (教育学)
所属学会 :
E-mail : yumi03yama@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇数学に連携する算数教育の試行—本質にこだわる教材開発—◇関数の理解を助けるために—N 図の提案—◇いつでもどこでもパソコン環境◇教えて考えさせる授業—平均の授業での理解深化問題の工夫—

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

【意味指導を確実にするための教材配列について】
【” なまわかり ” から ” わかる ” へ理解を深める指導の工夫】

(Kanao Edamoto)

助教 **枝元 香菜子**



担当科目 : 教職入門、体育 I、体育実技、教育実習、教育実習指導、
子ども教育学セミナー 他
出身学校 : 東京学芸大学教育学部、東京学芸大学大学院教育学研究科
保健体育専攻
学 位 : 修士 (教育学)
所属学会 : 日本体力医学会、日本学校教育学会、日本登山医学会
E-mail : edamoto@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「日常生活下における身体活動の増加が閉経後女性の食後中性脂肪濃度に及ぼす影響」『体力科学』第 64 号 (共著、日本体力医学会、2015 年) ◇「身体活動量を高め運動継続に繋げるための体育授業に関する一考察」『人と教育』第 11 号 (単著、目白大学教育研究所、2016 年) ◇「児童における足機能・形態と疼痛リスクおよび新体力テスト成績との関連性」『金沢学院大学紀要』第 18 号 (共著、金沢学院大学、2020 年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

子どもの身体活動量の向上にむけた取り組み
教育実践効力感尺度の作成および学校インターンシップカリキュラム開発

(Hanako Tochihara)

助教

栢原 華子



子ども教育学基礎セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、保育・教職実
担当科目 : 践演習(幼)、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、教職入門Ⅰ・Ⅱ、乳
児保育Ⅰ・Ⅱ、保育内容演習(表現) 他

出身学校 : 奈良女子大学大学院人間文化研究科

学 位 : 修士(文学)

所属学会 : 日本環境教育学会

E-mail : tochihara@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「鳥取県における2つの自然保育認証制度の意義-自然体験活動をめぐる議論の検討を中心として-」『筑波大学教育学系論集』第46巻第2号2022年◇「森林行政を主体とした幼児期の自然体験活動の推進-「ぎふ木育」を事例として-」『東京学芸大学環境教育研究センター研究報告 環境教育学研究』第32号2023年◇「東京都小金井市における地域環境の特徴をいかした環境教育の取り組み」(共著)『東京学芸大学環境教育研究センター研究報告 環境教育学研究』第32号2023年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

幼児期の自然体験活動を推進するための政策・制度

地域環境をいかした自然体験の推進

金沢学院大学 経済学部

学部長 豊田 欣吾

	教授	准教授	講師	助教
経済学科	大貫 裕二 奥井めぐみ 小田圭一郎 佐藤 淳 ○豊田 欣吾 根本 博 (特任) 長谷川秀司	中村 直行*(基) 平方 裕久	加藤 里紗	
経営学科	○大野 尚弘 田中 晴人 (特任) 千葉 俊徳 濱屋 敏 藤井 秀樹	米澤 順一 渡邊 誠士	上野 学 児島 記代	

○：学科長

※ () は兼務先学部 (五十音順)

(Yuji Onuki)

教授 **大貫 裕二** 経営情報学研究所(M・D)担当



産業組織論、ミクロ経済学Ⅱ、日本経済史、経営組織特論
担当科目 : I (大学院)、基礎演習、学修基礎 I ab、キャリアデザインⅠ、キャリアプランニングⅠ・Ⅱ
出身学校 : 東京工業大学大学院 総合理工学研究科 知能システム
科学専攻 博士課程
学位 : 博士 (学術)
所属学会 : 社会・経済システム学会、日本統計学会、サービス学会
E-mail : onuki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「東京都医療従事者の COVID-19 罹患倍率の推計」大貫 裕二 社会・経済システム 42 巻 p.79-86 2023 年 3 月 31 日◇「発症日別の COVID-19 新規感染者数のオープンデータによる簡易推計」大貫 裕二 社会・経済システム 42 巻 p.71-78 2023 年 3 月 31 日◇「ハードルモデルに基づくゼロデータ比率の表章」大貫 裕二 社会・経済システム 41 巻 p.63-73 2022 年 3 月 31 日◇「平成 20 年度国民健康・栄養調査に「朝バナナダイエット」ブームが与えた影響」大貫 裕二 社会・経済システム 40 巻 p.83-94 2021 年 ◇「国民経済計算の推計と利用を支援する手法に関する研究」大貫裕二 東京工業大学、学位論文、2013 年 3 月◇「非正方行列を用いたエージェント・ベースの産業連関分析」大貫 裕二 社会・経済システム 34 巻 p.107-114 2013 年◇「家計調査への思い出し記入導入のエージェント・ベース・シミュレーションによる評価」大貫 裕二 社会・経済システム 33 巻 p.115-123 2012 年 11 月◇「東日本大震災の復興事業における長期の関係性マネジメントに関する検討」大貫 裕二 国際 P2M 学会国際 P2M 学会誌 6 巻 2 号 p.53-62 2012 年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

COVID-19 などの社会・経済現象に関する統計データ処理、国民経済計算

(Megumi Okui)

教授 **奥井 めぐみ** 経営情報学研究所(M・D)担当



ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、労働経済学、公共経済学、現代経済
担当科目 : 論Ⅰ、経済学基礎、経済学概論、地域金融を考える ab、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ、公民科教育法 他
出身学校 : 大阪大学大学院国際公共政策研究科(博士後期課程修了)
学位 : 博士 (国際公共政策)
所属学会 : 日本経済学会 日本労務学会
E-mail : m-okui@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「育児休業取得期間が復帰後の女性の仕事満足度に与える影響」日本労働研究雑誌、No. 725, pp. 95-115, 2020 年. ◇「内生性を考慮した配置転換が昇進スピードに与える影響の分析—Multiprocess Survival Model を利用して—」金沢学院大学紀要第 19 号, pp. 35-46, 2021 年. ◇「仕事配分と人事評価が産休・育休からの復職者の仕事意欲に与える影響」甲南経営研究 第 62 巻第 3・4 号, pp. 71-92, 2022 年 (共著) ◇「独自アンケート調査からみる昇進に対する意識の実態」金沢学院大学紀要第 21 号, pp. 23-39, 2023 年. 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

非金銭的インセンティブが労働者の努力水準に与える影響を探る実証的研究

教授

(Keiichirou Oda)

小田 圭一郎

経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ゲーム理論、計量経済学Ⅰ・Ⅱ、金融論Ⅰ・Ⅱ、ファイナンス特論 他
出身学校 : 東京大学経済学部
Northwestern 大学大学院経済学博士課程単位取得
学位 : 修士(経済学)
所属学会 : 日本ファイナンス学会
E-mail : k-oda@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇"Public-Private Partnerships with Infrastructure Funds: An Optimal Incentive Device," RIETI Discussion Paper Series 18-E-085, 2018. ◇「銀行の貸し手責任を通じた企業の環境汚染削減について」, RIETI Discussion Paper Series, 18-J-033, 2018. ◇「カタストロフィ・ボンドの経済学的意義と問題点」, 『日経研月報』, 401, pp22-26, 2011年. ◇「資本市場を通じた自然災害リスクの移転について—カタストロフィ・ボンドを中心に—」, 伊藤滋・奥野正寛・大西隆・花崎正晴編, 『東日本大震災 復興への提言—持続可能な経済社会の構築』, 東京大学出版会, pp239-243, 2011年. ◇「ボルカールールの解釈について—銀行業務規の転換—」, 『日経研月報』, 383, pp64-68, 2010年.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・銀行行動と市場メカニズムとの相互作用についてのゲーム理論的分析
- ・証券化における銀行の retention 規制の評価に係る分析
- ・PPP/PFI におけるファンドを通じたインセンティブスキームに係る分析

(Jun Sato)

教授

佐藤 淳

経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : 地域経済論、まちづくり論、観光と経済、観光経済論、都市と文化
出身学校 : 東北大学 日本大学大学総合社会情報研究科
学位 : 博士(総合社会文化)
所属学会 : 地域デザイン学会、日本酒学研究会
E-mail : j-satou@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

(単著) ◇『國酒の地域経済学：伝統の現代化と地域の有意味化』文真堂、2021年(単著論文)
◇「日本酒の内需高級化と輸出増加—政府統計マイクロデータとPOSデータとを用いた実証分析—」『金沢学院大学紀要』21号、2023年 ◇「日本酒と本格焼酎の再興戦略」『地域デザイン』12号、2018年(共著論文) ◇「Japanese sake and evolution of technology: A comparative view with wine and its implications for regional branding and tourism」『Journal of Ethnic Foods』2017年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本酒学(産業研究)

(Kingo Toyota)

教授

豊田 欣吾

経営情報学研究科(M・D)担当



現代経済論Ⅰ・Ⅱ、経済政策論、財政学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経

担当科目 : 経済Ⅰ、計量経済学Ⅰ・Ⅱ、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ
他

出身学校 : 横浜国立大学経済学部

学 位 : 学士(経済学)

所属学会 :

E-mail : toyoda@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「経済成長と格差、科学技術イノベーション」『JST 研究開発戦略ローンチアウト(2018年5月)』
- ◇「景気指標としてのGDP統計～その信頼性向上に向けて～」『景気とサイクル(2010年11月)』
- ◇「経済財政運営と経済財政諮問会議－政策決定プロセスはどのように変化したか－」『月刊NIRA政策研究(2006年1月)』

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・日本経済の現状と課題
- ・経済格差とイノベーション
- ・SNA(国民経済計算)の整備・改善

(Hiroshi Nemoto)

特任教授

根本 博

経営情報学研究科(M・D)担当



経済学Ⅰ・Ⅱ、経済学の基礎、現代経済論Ⅰ、学修基礎Ⅱ

担当科目 : ab、財政学、財政学特論、ベンチャービジネス特論、特論
演習、地域経済研究 他

出身学校 : 東京大学経済学部

学 位 : 経済学士

所属学会 :

E-mail : nemoto@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- 著書 ①『北陸から見る日本経済』(共著)2020年11月、北國新聞社
②『人にやさしい経済学』(単著)2015年4月、北國新聞社
③『ボランティア経済と企業』(編著)2002年9月、日本評論社
- 論文 ①「経済学と経営学－有用性と学部選択」(単著)2022年3月、金沢学院大学紀要
②「北陸経済の歩み」(単著)2018年6月、北陸経済研究所
③「高度成長の評価」(共著)1975年7月、日本評論社

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本経済の現状と課題、市場を補完するボランティア経済の役割

(Shuji Hasegawa)

教授 **長谷川 秀司** 経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、財政学、公益事業論、基礎演習Ⅰ・Ⅱ 他
出身学校 : 東京大学
学 位 : 学士
所属学会 : 日本経済学会
E-mail : s-hasegawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「デジタル SUT(供給・使用表)2015, 2018 年表の推計について」、内閣府経済社会総合研究所、2022 年 3 月、共著◇「2018 年度シェアリング・エコノミー等新分野の経済活動の計測に関する調査研究」報告書、内閣府経済社会総合研究所、2019 年 7 月、共著◇「公共料金の決定の在り方について」、消費者庁、2012 年 11 月、共著◇「第 10 章 地域経済と地方分権」、金森久雄他編『日本経済読本(第 17 版)』、2007 年 4 月、東洋経済新報社◇「付論 デフレーター試算」、土肥原他『国民経済計算から見た日本経済の新動向』ESRI Discussion paper No. 167、内閣府経済社会総合研究所、2006 年 7 月

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

デジタル化が経済社会に与える影響とその計測問題

(Takahiro Oono)

教授 **大野 尚弘** 経営情報学研究科(M・D)担当



マーケティング論Ⅰ・Ⅱ、流通論Ⅰ・Ⅱ、消費者行動論、マーケティング・リサーチ、キャリアプランニングⅠ・Ⅱ、
担当科目 : 学修基礎Ⅰab、キャリアデザインⅡ・Ⅲ、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ、デジタル経済、ビジネス・ケーススタディab
出身学校 : 神戸大学大学院経営学研究科
学 位 : 修士(商学)
所属学会 : 日本商業学会
E-mail : oono@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

単著『PB 戦略 その構造とダイナミクス』千倉書房

共著「インターネット技術と新しい小売業態」『1からの流通論(第2版)』碩学舎

共著「北陸の医薬品産業の歩み 富山県における産地形成の背景を探る」『データで振り返る北陸の50年』能登出版

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

流通業における PB 戦略、

インターネット技術と小売企業、EC(電子商取引)について研究

(Haruto Tanaka)

特任教授

田中 晴人

経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : 経営管理論 I・II、ビジネス戦略、組織行動論
出身学校 : 金沢大学大学院
学 位 : 修士(経済学)
所属学会 : 日本経営学会
E-mail : mtanaka@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「ダイナミック・ケイパビリティとポジショニング・アプローチ」(『金沢学院大学紀要』第18号 2020年3月) ◇「チャンドラーの組織能力概念について」(『金沢学院大学紀要』第16号 2018年3月) ◇「経営資源の諸概念と『アクティブな経営能力』について」(『金沢学院大学紀要』第10号 2012年3月) ◇「資源ベース・アプローチの意義と問題点」(『金沢学院大学紀要』第9号 2011年3月) ◇「経営戦略論における経営資源の問題について」(『金沢学院大学紀要』第7号 2009年3月) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

経営戦略に関する研究
経営資源に関する研究

(Toshinori Chiba)

教授

千葉 俊徳

経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : 税法基礎、税法、税務会計 I・II、租税法特論、租税法各論 I・II、税務会計特論、特論演習
出身学校 : 中央大学
学 位 : 法学士
所属学会 :
E-mail : chiba-t@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇争訟事例に見る居住者・非居住者該当判断の困難性と不納付加算税免除の「正当な理由」(税大ジャーナル 31号) ◇「難航する教育財源改革ーテキサス州の事例ー」(JETRO 通商弘報 2005年6月) など

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

・租税回避事案等に係る争訟事例分析
・無申告加算税加重措置(令和5年税制改正)の相続税課税における意義・効果

(Hamaya Satoshi)

教授

濱屋 敏

経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : 経営学基礎 I・II、経営組織論、学修基礎 I ab、基礎演習 I・II、ビジネス・ケーススタディ ab、経営学特論 他
出身学校 : 京都大学、University of Rochester
学 位 : 法学士 (京都大学)、MBA (University of Rochester)
所属学会 :
E-mail : hamaya@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「エコシステムにおける価値の共創：介護ビジネスを題材として」(中島正人氏との共著)『日本情報経営学会誌』、2020年9月◇「中小企業の国際化の新モデル模索—岩手県中小企業に対する実態調査からの考察—」(近藤信一氏、大平剛史氏との共著)『機械経済研究』2019年12月◇『ネットは社会を分断しない』(田中辰雄氏との共著)角川新書、2019年10月◇「IoT時代の価値創造と経営情報システムに関する一考察」『経営情報学会誌』2019年3月◇『IoT時代の競争フレームワーク』(根来龍之氏らとの共著)中央経済社、2016年6月 等

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・データ活用による付加価値創出の条件
- ・デジタル技術の活用、DXに取り組む地域企業

(Naoyuki Nakamura)

准教授

中村 直行

経営情報学研究科(M)担当



担当科目 : 哲学、哲学 I・II、倫理学、情報倫理、数学基礎、コンピュ
ータ活用演習 I・II、情報倫理特論
出身学校 : 金沢大学大学院
学 位 : 博士 (文学)
所属学会 : 日本科学哲学会 応用哲学会 中部哲学会
E-mail : nao-naka@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇(単著・著作:2022)『表現の極端ニズム — 反転する二重構造を生きる—』大学教育出版 ISBN: 978-4-86692-228-7 ◇(単著・著作:2015)『沈黙と無言の哲学 — 〈語りえぬもの〉の語りなさを語る—』大学教育出版 ISBN: 978-4864293266 ◇(単著・博士論文:2006)「沈黙すべき〈語り得ぬもの〉とは何か?—『論考』の峰と山脈を追いかけて—」金沢大学 博士論文◇(単著・論文:2023)「形式化・公理化し、論理と集合から数学を再構築する時に最も根本となる概念」金沢学院大学紀要 (第21号) pp. 255-268、査読有 ◇(単著・論文:2022)「生きられたくない — 懺悔の使用と言及—」金沢学院大学紀要 (第20号) pp. 232-237 査読有り◇(単著・論文:2021)「生への全くの無関心を生きる — 生に対する非・不・無・反、それらの中立の生き方あるいは超然たる生き方—」金沢学院大学紀要 (第19号) pp. 147-152、査読有 ◇(単著・論文:2016)「〈夢の使用〉と〈夢への言及〉」、金沢大学『哲学・人間学論叢』柴田正良教授退職記念号 (第7号) pp. 51-64 ◇(単著・論文:2012)「〈語り得ぬもの〉の語り得なさ」金沢大学『哲学・人間学論叢』砂原陽一先生退職記念号 (第3号) pp. 7-49年、査読有り ◇(単著・論文:2011)「Gödel の第二不完全性定理の証明における背理法適用への批判」、金沢大学『哲学・人間学論叢』 (第2号) pp. 17-29

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ① 〈考えなくなる〉哲学へ至る
- ② 定義式内の中立記号
- ③ 文内の共存仮説
- ④ 非売品の哲学

(Yasuhisa Hirakata)

准教授 **平方 裕久**



経済学史、社会保障論、社会政策論、医療政策論、経済学

担当科目 : 概論、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、
演習Ⅰ・Ⅱ 他

出身学校 : 九州大学大学院経済学府

学 位 : 博士(経済学)

所属学会 : 経済学史学会 社会政策学会 進化経済学会 経済理論
学会 九州経済学会

E-mail : hirakata@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇平方裕久. 2023. 「ギリス公共サービス再編における Red Toryism」第 27 回進化経済学会東京大会年次大会(口頭報告). ◇平方裕久. 2022. 「1970 年代イギリスにおけるネオリベリズムの浸透とニュー・ライト」『九州経済学会年報』60: 61-69. ◇平方裕久. 2022. 「公共サービスの市場化をめぐる経済思想—準市場論と公共領域の再編」『金沢学院大学紀要』20, 117-128. ◇Yasuhisa Hirakata. 2018. 'Education Reform under the Thatcher Government and Hayek's Thoughts on Welfare State: Market Mechanism and Managed Competition', Review of Economics, Kyushu Sangyo University, 22(3/4), 95-111. ◇平方裕久 2017. 「D. キャメロンの「大きな社会」構想とイギリス福祉国家の再編」◇『エコノミクス』(九州産業大学), 21(3), 13-31. ◇高哲男・平方裕久 2014. 『経済学史のエッセンシャルズ』知新出版研究所. ◇平方裕久 2014. 「ハイエクとサッチャー: 教育改革と管理された競争」桂木隆夫◇(編)『ハイエクを読む』ナカニシヤ出版, 304-330.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・イギリス福祉国家と「公共」をめぐる経済思想
- ・イギリス経済政策への新自由主義の浸透

(Junichi Yonezawa)

准教授 **米澤 順一**



会計学基礎Ⅰ・Ⅱ、商業簿記Ⅰ・Ⅱ、原価計算Ⅰ・Ⅱ、基

礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ 他

出身学校 : 金沢大学経済学部 金沢学院大学大学院

学 位 : 修士(経営情報学)

所属学会 :

E-mail : yonezawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『ストック・オプション会計の問題点に関する一考察』金沢学院大学平成 18 年度修士論文◇
『わが国における退職給付会計の展開(1)』金沢学院大学紀要第 12 号(2014) ◇『高等学校商業科における科目指導法について—簿記を題材に—』金沢学院大学紀要第 18 号(2020) ◇『商業科における「原価計算」の指導方法について—総合原価計算を題材に—』金沢学院大学教職センター紀要第 3 号(2019)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

簿記の教授法について

(Masashi Watanabe)

准教授

渡邊 誠士

経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : 学修基礎Ⅱa・b、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ、会計学基礎Ⅰ・Ⅱ、財務管理Ⅰ・Ⅱ、経営分析Ⅰ・Ⅱ 他
出身学校 : 京都大学大学院経済学研究科
学位 : 修士(経済学)
所属学会 : 日本会計研究学会 会計理論学会 日本ディスクロージヤ研究学会 財務会計研究学会 公益事業学会
E-mail : w-masashi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「ストック・オプション取引と会計主体—ストック・オプションの資産性に関する理論的考察—」『会計理論学会年報』第29号, 2015年 ◇「ストック・オプションの会計処理と税務処理に関する一考察」『財務会計研究』第10号, 2016年 ◇「ストック・オプション費用の比較可能性に関する実証研究—株式報酬型ストック・オプション費用に対する市場評価への注記情報の利用—」『経済論叢』第190号第1巻, 2016年 ◇「ストック・オプション会計における対応概念の役割—対応概念の有用性の再検討—」『会計理論学会年報』第30号, 2016年 ◇「日本郵便の統合効果—財務諸表分析を通して—」『公益事業研究』第68巻第3号, 2016年 ◇「ストック・オプション費用の収益・費用対応への影響」『経済論叢』第191巻第3号, 2017年 ◇「日本郵政の株式上場と企業価値推定」『公益事業研究』第66巻, 第1号, 2014年(共著) ◇”The Stock Listing and Business Value Estimation of Japan Post Holdings” Korea International Accounting Review, 2014(共著) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ストック・オプション会計, 日本郵政グループ, 会計制度の比較制度分析

(Risa Kato)

講師

加藤 里紗



担当科目 : 経済学概論、持続可能な発展論、国際経済、世界経済史、
ビジネス・ケーススタディ a・b 学修基礎Ⅱa・b、FSP 講座、キャリアプランニングⅠ、基礎演習ⅠⅡ、演習ⅠⅡ
出身学校 : 名古屋大学大学院
学位 : 博士(経済学)
所属学会 : 環境経済・政策学会 進化経済学会
E-mail : r-katou@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇加藤里紗(2018)「エコロジー的近代化の理論と政策的展開—韓国の『低炭素緑色成長戦略』を例として—」2017年度博士学位請求論文, 名古屋大学. ◇加藤里紗(2018)「エコロジー的近代化論の発展と多様性」『経済科学』名古屋大学大学院経済学研究科, 第65巻第3号, pp. 31-44. ◇加藤里紗(2020)「環境・経済・福祉の統合に向けて: エコロジー的近代化からエネルギー貧困まで」『経済科学』67(3), pp. 29-39. ◇加藤里紗(2021)「韓国の低炭素緑色成長戦略の継続と進展—二次・三次五カ年計画を中心に—」『経済科学』69(1/2), pp. 99-46. ◇KATO, Risa (2021), “Ecological Social Market in East Asian State-centered Approaches: Green Growth Strategy in South Korea”, in Proceeding of Freiburg-Nagoya Joint Seminar, “How Traditions of Economic Thinking Shape Economic Policies.” ◇加藤里紗(2022)「エネルギー貧困の測定方法の検討」、『金沢学院大学紀要』, 金沢学院大学, 第20号, pp. 70-78.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

韓国の「低炭素緑色成長戦略」と韓国版グリーンニューディール、エネルギー貧困

(Gaku Ueno)

講師 **上野 学**



会計学基礎Ⅰ・Ⅱ、経営学基礎Ⅰ・Ⅱ、キャリアデザインⅠ、
担当科目 : キャリアプランニングⅠ・Ⅱ、FSP 講座、学修基礎Ⅱ、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ、管理会計、監査論
出身学校 : 東北大学
学 位 : 博士(経営学)
所属学会 : 日本会計研究学会、日本監査研究学会、日本ガバナンス研究学会、米国会計学会
E-mail : ueno@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

[学術論文] ◇(査読無) Gaku Ueno (2019) “Identifying the Determinants of Audit Fees, in A Post J-SOX Scenario” Discussion Paper No.132 TOHOKU MANAGEMENT & ACCOUNTING RESEARCH GROUP ◇上野 学 (2020) 「第7章 実証的監査報酬研究の展開と課題」高田敏文編著『会計・監査研究の展開』同文館出版所収、135-146頁 他
[講演・学会発表など] 渡邊誠士、上野学「企業の逸脱行為と監査報酬、利益調整行動の関連性—金融庁による課徴金勧告を題材にして—」第24回東北大学会計研究会、2023年3月(セミナー発表) 上野 学「異常リスク解消行動と監査報酬の関係」RIEBセミナー、神戸大学、2012年12月(MISC) 1。上野 学「学会ルポ 日本監査研究学会第44回全国大会」『企業会計』74(1)、140頁-140頁、中央経済社 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

監査報酬の決定要因分析 初度監査時の監査報酬に関する実証研究 内部統制報告制度と監査品質の関係性

(Noriyo Kojima)

講師 **児島 記代**



会計学基礎Ⅰ・Ⅱ、財務会計、実践簿記Ⅰ・Ⅱ、簿記論Ⅰ・Ⅱ、財務諸表論Ⅰ・Ⅱ
担当科目 :
出身学校 : 茨城大学人文学部社会科学科
学 位 : 博士(政策)
所属学会 : 日本簿記学会、税務会計学会
E-mail : noriyo-k@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「鯉淵学園農業栄養専門学校における原価計算の教授法についての一研究—プロジェクト学習指導の事例から—」鯉淵学園教育研究報告第30号 2020年3月 ◇「高度施設園芸・植物工場における生産コストに関する研究—日本型とオランダ型の比較を中心に—」千葉商科大学経済研究所 Research Paper No. 72 2015年7月 ◇「畜産型原価計算の研究—畜産等級別総合原価計算適用への提言—」千葉商科大学 Policy Studies Review No. 26 2010年7月

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

農業における原価計算の適用
新たな農業経営に対応する管理会計的アプローチ

金沢学院大学 経済情報学部

学部長 桑野 裕昭

	教授	准教授	講師	助教
経済情報学科	石川 温	河畑 則文	小形 優人	張江 洋次朗
	○桑野 裕昭 ゴータム・ピヌヌ・ブラサド	小西 尚之	後藤 弘光	
	佐々木圭一			
	田中 良巳			
	藤本 祥二			
	松田 聡浩			

○：学科長

(五十音順)

(Atushi Ishikawa)

教授

石川 温

経営情報学研究科(M・D)担当



コンピュータ基礎演習 I・II (ab)、経済情報学 I・II、経

担当科目 : 済データ分析 I・II、計量社会科学 I・II、基礎演習 I・II、演習 I・II 他

出身学校 : 大阪大学大学院

学位 : 博士(理学)

所属学会 : 日本物理学会

E-mail : ishikawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Generation of Individual Daily Trajectories by GPT-2, Front. Phys. 10:1021176 (2022) doi: 10.3389/fphy.2022.1021176 ◇Copula-Based Synthetic Data Generation in Firm-Size Variables, The Review of Socionetwork Strategies (2022) <https://doi.org/10.1007/s12626-022-00128-6> ◇Employee Number Dependence in Labor Productivity Distribution, The Review of Socionetwork Strategies (2022) <https://doi.org/10.1007/s12626-022-00121-z> ◇Statistical Properties in Firms' Large-scale Data (Evolutionary Economics and Social Complexity), Springer (2021) Tokyo, Japan, 155p. ◇Interpolation of non-random missing values in financial statements' big data using CatBoost, Journal of Computational Social Science (2022) <https://doi.org/10.1007/s42001-022-00165-9> ◇Statistical Properties of Labor Productivity Distributions, Front. Phys. 10:848193 (2022). doi: 10.3389/fphy.2022.848193 ◇Quasi-Static Variation of Power-Law and Log-Normal Distributions of Urban Population, Entropy Special Issue "Mathematical Analysis of Urban Spatial Networks" (2021) 23, 908, <https://doi.org/10.3390/e23070908>

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

経済物理学、社会物理学、情報学

(Hiroaki Kuwano)

教授

桑野 裕昭

経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : 経営科学 I・II、アルゴリズムとデータ構造、基礎演習 I・II、演習 I・II、経営科学特論 他

出身学校 : 金沢大学大学院自然科学研究科

学位 : 博士(工学)

所属学会 : 日本オペレーションズ・リサーチ学会 日本数学会 日本知能情報ファジィ学会

E-mail : kuwano@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Shortest path problem that edge lengths are given as elements of a quasi-ordered set, JOURNAL OF KANAZAWA GAKUIN UNIVERSITY, No. 21, 245-254, 2023 ◇ファジィ・プロジェクト・リスク管理モデル, 「不確実性の下での意思決定の数理とその周辺」RIMS 講究録 2126, 93-98, 2019 ◇プロジェクト・リスク・マネジメントにおけるリスク対策効果尺度に関する一考察, 「不確実性の下での意思決定理論とその応用: 計画数学の展開」RIMS 講究録 2078, 222-228, 2018 ◇プロジェクト・リスク・マネジメントにおける対策すべきリスクの選択について, 「確率的環境下における数理モデルの理論と応用」RIMS 講究録 2044, 171-181, 2017 ◇プロジェクト・リスク・マネジメントにおけるリスク対策の数理モデル化, 「不確実・不確実性の下での数理意思決定モデルとその周辺」RIMS 講究録 1990, 230-237, 2016 ◇ファジィ集合値写像の導写像について, 「不確実性の下での数理モデルとその周辺」RIMS 講究録 1939, pp. 209-214, 2015 ◇プロジェクト・リスクにおける汎用的フレームワークについて, 「不確実性の下での数理モデルとその周辺」RIMS 講究録 1939, pp. 162-171, 2015

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

①人間の曖昧な認識に基づく情報環境での意思決定 ②意思決定にかかわる諸問題のモデル化とその分析 ③プロジェクト・リスク・マネジメントの数理的解析

(Gautam Bishnu Prasad)

教授 **ゴータム・ビスヌ・プラサド**



担当科目 : 暗号とセキュリティ、情報技術 I・II、情報通信ネットワーク I・II、基礎演習 I・II、演習 I・II 他
出身学校 : 信州大学大学院総合工学研究科
学 位 : 博士 (工学)
所属学会 : IPSJ 情報処理学会, IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers) 他
E-mail : gautam@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ Harie, Y.; Gautam, B. P.; Wasaki, K. Computer Vision Techniques for Growth Prediction: A Prisma-Based Systematic Literature Review. Appl. Sci. 2023, 13, 5335. <https://doi.org/10.3390/app13095335>, (2023) ◇ Sharma, S.; Sato, K.; Gautam, B. P. A Methodological Literature Review of Acoustic Wildlife Monitoring Using Artificial Intelligence Tools and Techniques. Sustainability 2023, 15, 7128. <https://doi.org/10.3390/su15097128>, (2023) ◇ S. Sharma, K. Sato and B. P. Gautam, "Bioacoustics Monitoring of Wildlife using Artificial Intelligence: A Methodological Literature Review," 2022 International Conference on Networking and Network Applications (NaNA), Urumqi, China, 2022, pp. 1-9, doi: 10.1109/NaNA56854.2022.00063., (2022) ◇ B. P. Gautam, B. Amit and N. Shiratori, "A Proposal of ClouEdge (Cloud-Edge) Architecture by Using JYAGUCHI Computing Framework," 2022 International Conference on Networking and Network Applications (NaNA), Urumqi, China, 2022, pp. 338-344, doi:10.1109/NaNA56854.2022.00064., (2022) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

SDN ネットワークのセキュリティ強化に関する研究 パケットフィルタリングと DPI (Deep Packet Inspection) パケットの監視, 古代農具の IoT 化, 耐災害ネットワークの構築, ネットワークの監視及び管理など

(Keiichi Sasaki)

教授 **佐々木 圭一**



自然科学概論 I・II、自然地理学概説 I・II、学修基礎 I
担当科目 : ab、キャリアデザイン I、キャリアプランニング I・II、レポート・プレゼンテーション演習 他
出身学校 : 金沢大学
学 位 : 博士 (理学) [金沢大学]
所属学会 : 日本地質学会 日本第四紀学会 日本サンゴ礁学会 他
E-mail : sasak1@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 炭素・酸素同位体組成に基づく地表露出面から復元する約 62~52 ka の海水準変動 (2013) 共著 地質学雑誌 v. 119, p. 155-170
◇ $^{230}\text{Th}/^{234}\text{U}$ and ^{14}C dating of a lowstand coral reef beneath the insular shelf off Irabu Island, Ryukyus, southwestern Japan (2006) 共著 Island Arc v. 15, p. 455-467
◇ Interstadial coral reef terraces and relative sea-level changes during the marine isotope stages 3-4 at Kikai Island, central Ryukyus, Japan. (2004) 共著 Quat. Int., v. 120, p. 51-64

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

① 南西諸島喜界島における完新世サンゴ礁段丘の形成過程 ② 琉球列島のサンゴ礁堆積物からみた後期更新世以降の海水準変動 ③ 放射性同位体を用いた物質循環に関する研究

(Yoshimi Tanaka)

教授 **田中 良巳**



コンピュータ基礎演習 I a/b、コンピュータ基礎演習 II a/b、プログラミング I a/b、プログラミング II a/b、プログラミング基礎 a/b、社会データ分析、統計基礎、金融データ分析

担当科目 : 上記

出身学校 : 京都大学大学院人間環境学研究科

学位 : 博士 (人間・環境学)

所属学会 : 日本物理学会、日本レオロジー学会、日本応用数理学会

E-mail : yoshimi-t@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇Y. Tanaka, K. Ito, T. Nakagaki, R. Kobayashi, Mechanics of peristaltic locomotion and role of anchoring, Journal of the Royal society, interface 9, 222-233 (2012).
- ◇Y. Morigaki, H. Wada, Y. Tanaka, Stretching an Elastic Loop: Crease, Helicoid, and Pop Out, Physical Review Letters 117, 198003:1-5 (2016).
- ◇Y. Tanaka, M. Seii, J. Sui, M. Doi, Gel dynamics in the mixture of low and high viscosity solvents: Re-entrant volume change induced by dynamical asymmetry, J.Chem. Phys. 152, 184901 (2020).

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ソフトマテリアルやそれを構成要素とする樹木等の自然の構造物の形と変形の解析

(Syouji Fujimoto)

教授 **藤本 祥二** 経営情報学研究科(M)担当



プログラミング基礎 ab、プログラミング I ab、社会データ分析、金融データ分析、情報科教育法、基礎演習 I・II、演習 I・II 他

担当科目 : 上記

出身学校 : 金沢大学大学院 自然科学研究科

学位 : 博士 (理学)

所属学会 : 日本物理学会、情報処理学会

E-mail : fujimoto@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇Generation of individual daily trajectories by GPT-2, Frontiers in Physics Sections Interdisciplinary Physics Volume 10 (2022)
- ◇Copula-Based Synthetic Data Generation in Firm-Size Variables, The Review of Socionetwork Strategies volume 16, pages479-492 (2022)
- ◇Interpolation of non-random missing values in financial statements' big data using CatBoost, Journal of Computational Social Science volume 5, pages1281-1301 (2022)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

経済物理学、データサイエンス、機械学習、深層学習、人口動態、企業データ、地域経済指標、SNS ユーザ集団、等のビッグデータを用いた分析

(Akihiro Matsuda)

教授 **松田 聡浩**



コンピュータ基礎演習 I・II (ab)、情報マネジメント基礎

担当科目 : I・II、キャリアデザイン I・II・III、情報サービスマネジメントとシステム監査、基礎演習 I・II 他

出身学校 : 東京大学大学院工学系研究科システム量子工学専攻

学位 : 博士 (工学) (東京大学)

所属学会 : 日本機械学会、日本計算工学会

E-mail : a-matsuda@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『高齢者職域開発のための職務再設計—IE アプローチ—』, 金沢学院大学紀要, 第 21 号, 150-159 (2023), 単著◇『障害者職業カウンセラー厚生労働大臣指定講習テキスト第 3 版、第 4 巻専門的支援に活用できる関連領域の知識と手法』, 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 (2019), 共著◇『モード解析ハンドブック』, コロナ社 (2000), 共著◇『感性と設計』, 培風館 (1999), 共著◇『計算法学 (V)』, 養賢堂 (1997), 共著

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

機械学習を用いた非線形逆問題解析手法の開発
高齢者・障害者向け職務再設計工学の構築

(Norifumi Kawabata)

准教授 **河畑 則文**



プログラミング基礎 a/b、コンピュータ基礎演習 I a/b・

担当科目 : II a/b、プログラミング I a/b、プログラミング III a/b、プログラミング IV a/b、データベース I・II 他

出身学校 : 名古屋大学大学院情報科学研究科情報システム学専攻

学位 : 博士 (情報科学) (名古屋大学)

所属学会 : 映像情報メディア学会、電子情報通信学会、IEEE Signal Processing Society (SPS), IEEE Engineering in Medicine & Biology Society (EMBS) 他

E-mail : n-kawabata@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ “3D CG Image Quality Metrics by Regions with 8 Viewpoints Parallax Barrier Method,” IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, Vol. E98-A, No. 08, pp. 1696--1708, August 2015. ◇ “Statistical Analysis of Subjective Assessment for 3D CG Images with 8 Viewpoints Lenticular Lens Method,” IEEE Transactions on Image Electronics and Visual Computing, Vol. 4, No. 2, pp. 101--113, December 2016. ◇ “Multi-view 3D CG Image Quality Assessment for Contrast Enhancement Based on S-CIELAB Color Space,” IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E100-D, No. 07, pp. 1448--1462, July 2017. ◇ “Statistical Analysis of Questionnaire Survey on the Assessment of 3D Video Clips,” Displays, Vol. 71, 102110, January 2022. ◇ “Color Laparoscopic Image Region Segmentation after Contrast Enhancement Including SRCNN by Image Regions,” In Proc. of The International Forum on Medical Imaging in Asia (IFMIA2021), 6 pages, National Taiwan University of Science and Technology (Online), January 24-26, 2021.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

①色彩情報工学、②コンピュータグラフィックス、③視覚メディア、④メディカルシステム、⑤モビリティ社会システム、⑥情報システムプラットフォーム、ソフトウェア・ハードウェア協調設計、プログラミング言語処理系理論の適用
これら①～⑥のキーワードを踏まえて、経済メディア (金融、新聞、マスコミ、企業経営、不動産など) から得られる信号データに基づいたマルチメディア信号処理に関する研究

(Naoyuki Konishi)

准教授 **小西 尚之**



担当科目 : 社会学Ⅱ、生徒・進路指導論、教育課程論 他
出身学校 : 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程(単位取得満期退学)
学 位 : 修士(教育学)
所属学会 : 日本教育社会学会、日本教育学会、日本学校教育学会
E-mail : n-konishi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「総合学科高校におけるカリキュラム・トラッキング—3年間のパネル調査から」2012年、『カリキュラム研究』第21号、29-42頁◇「高等学校総合学科におけるトラックの『誤認』—系列と進路選択に関する事例調査から」2014年、『学校教育研究』第29号、88-99頁◇「設置後25年の総合学科高校の現状—『総合学科高校の教育に関する実態調査』の結果から—」2020年、『高崎健康福祉大学紀要』第19号、13-25頁

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

総合学科高校における進路選択

(Yuto Ogata)

講師 **小形 優人**



担当科目 : 一般数学、経済数学、プログラミングⅡa/b、データベースⅠ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ 他
出身学校 : 新潟大学大学院自然科学研究科
学 位 : 博士(理学)
所属学会 : 日本OR学会
E-mail : y-ogata@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Robustness of multi-valued optimization problems via set relations, Study on Nonlinear Analysis and Convex Analysis, RIMS Kōkyūroku, No. 2240 (2023), 169-174. ◇Generalized dual expression for set relations by means of sublinear scalarization functions, RIMS Kōkyūroku, No. 2214, 70-75 (2022). ◇Multi-objective Optimization Problems with SOS-convex Polynomials over an LMI Constraint, Taiwanese J. Math. 24 (2020), 1021-1043. ◇Sublinear like Scalarization Scheme for Sets and its Applications to Set valued Inequalities, Variational Analysis and Set Optimization: Developments and Applications in Decision Making, 72-91, CRC Press, Boca Raton, FL, 2019. ◇An alternative theorem for set-valued maps via set relations and its application to robustness of feasible sets, Optimization 67 (2018), 1067-1075.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

数理最適化(多目的最適化, 離散最適化), 応用数学(凸解析, 集合値解析)

(Hiromitsu Goto)

講師 **後藤 弘光**



情報科学 I・II、統計基礎、コンピュータ基礎演習 I・II

担当科目 : (ab)、機械学習 I・II、ネットワーク科学と経済 I・II (ab)、基礎演習 I・II、演習 I・II 他

出身学校 : 金沢大学

学位 : 博士 (理学)

所属学会 : 日本物理学会

E-mail : goto@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Similarity and Connectivity of Industrial Networks of Japanese Prefecture Based on Firm-level Data, RIETI Discussion Paper Series 22-E-092 (2022)◇Complex Global Interdependencies between Economic Policy Uncertainty and Geopolitical Risks Indices, RIETI Discussion Paper Series 22-E-028 (2022) ◇Macroscopic Structure of the Supply-Chain Network and the Growth of Firms in Japan, JPS Conf. Proc. 36, 011011 (2021) ◇Multilayer Network Analysis of the Drugs Development Cycle in the Global Pharmaceutical Industry, Appl Netw Sci 5, 87 (2020). ◇ネットワーク科学による学生間のつながり可視化 - 官民協働留学支援制度「トビタテ」によるコミュニティ形成-, 留学交流 2020 年 11 月号 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・強靱な循環経済システム構築に向けたネットワーク科学的実証研究
- ・対話を活用した教育実践のネットワーク科学による定量評価手法の開発

(Yojiro Harie)

助教 **張江 洋次郎**



プログラミング III・IV (ab)、学修基礎 II (ab)、キャリアデザイン

担当科目 : ザイン II、キャリアプランニング II、コンピュータ基礎演習 I・II a/b、基礎演習 I・II 他

出身学校 : 信州大学総合工学系研究科

学位 : 修士 (工学)

所属学会 : 電子情報通信学会, 米国電気電子工学会, ACM

E-mail : harie@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇“Memory Efficient Video Collection and Extraction Technique for Augmented Triplet Network’s Dataset”, Yojiro Harie, Sangam Babu, Neupane, Bishnu Prasad Gautam, 2022 37th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC) 2022◇” An Approach for Flow Net Subgraph to Modelling and Analysis of Flexible Manufacturing Systems”, ITC-CSCC, 39-44 (2020). ◇” Augmented Triplet Network for Individual Organism and Unique Object Classification for Reliable Monitoring of Ezoshika Deer”, CANDARW, 197-200 (2021). ◇” Hierarchical Petri Net Simulator: Simulation, Design Validation, and Model Checking Tool for Hierarchical Place/Transition Petri Nets”, SIMULTECH. 2017, 356-361 (2017). ◇” 仕様に基づいたペトリネットのトランジション優先発火による on-the-fly モデル検査の効率化”, 情報処理学会, 455-456 (2016). ◇” ペトリネットツール HiPS が生成した状態空間と LTL による仕様記述を用いた On-the-fly モデル検査器の設計と実装”, 電子情報通信学会, A-1 (2016).

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

システム検証系・ペトリネット・機械学習アルゴリズム・機械学習工学

金沢学院大学 芸術学部

学部長 飯田 栄治

	教授	准教授	講師	助教
芸術学科	荒川 昭広	加藤 謙一	松永龍太郎	
	飯田 栄治	越田 久文	村谷 聡志	
	○市島 桜魚	羽場 文彦		
	末松 智 (特任)	本田 正史		
	平木 孝志 (特任)	吉田 一誠		
	広根 礼子			
	柳橋 広司			

○ : 学科長

(五十音順)

(Akihiro Arakawa)

教授 **荒川 昭広**



デザイン概論Ⅰ・Ⅱ、CG演習a・b、美術科教育法Ⅱ、ビ
担当科目 : ジュアルデザイン、デザイン演習Ⅱ、ウェブ活用演習Ⅱab
他
出身学校 : 金沢美術工芸大学
学 位 : 芸術学士
所属学会 : 日本デザイン学会 大学美術教育学会 石川県ビジュアル
デザイン協会 理事
E-mail : arakawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇デザイン教育におけるアクティブラーニングの実践
- ◇美術とメディアデザインを融合した授業の導入計画
- ◇美術とメディアデザインを融合した複合的な学び
- ◇デジタルイラストレーションによる絵画的表現「リアル背景画～写真から絵画～」
- ◇中高美術科教育における表現テーマの考察～現代美術作品の模倣による制作指導～

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

問題解決につなげるデザイン思考

(Eiji Iida)

教授 **飯田 栄治** 経営情報学研究科(M)担当



学修基礎Ⅰ・Ⅱ、地域課題研究、ソフトウェア基礎論a・
担当科目 : b、工学デザインa・b、卒業制作・研究Ⅰ・Ⅱ CG活用演
習a・b、ゲームデザインa・b 他
出身学校 : 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科
学 位 : 情報科学博士
所属学会 : 電子情報通信学会 情報処理学会 人工知能学会
日本シミュレーション学会
E-mail : e-iida@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇“人間の持つ解決戦略を利用した問題解決システム” 情報処理学会、第6回数値モデルと問題解決のシンポジウム論文集 2000.3 ◇“N2-1 パズルのスケールダウン解法” 電子情報通信学会和文論文誌 1998.7 ◇“A system to Perform Human Problem Solving” The 5th International Conference on Soft Computing and Information / Intelligence Systems, 1998.10 ◇メッセージプロジェクト システム 出展 愛知万博 2005.5 ◇“メッセージプロジェクト装置の制作とその効果について” エンタテインメントコンピューティング 2005.9 ◇金沢城辰巳櫓 3DCG制作(2007、石川県、北國総研) 金沢市内小学校 DVD 配布 ◇“電子掛け軸” エンタテインメントコンピューティング 2008.9 (金沢 21世紀美術館) ◇“「かげおくり」システム デモ エンタテインメントコンピューティング” 2009.9 (東京大学) ◇“快適で美しいまちづくり推進の金沢らしい表示物に関する研究” 2013.3 (金沢市) ◇“石川県の伝統文化の魅力海外発信プロジェクト” 2016.3(石川県)他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ①デジタルアート及びバーチャルリアリティシステムの研究 ②地域魅力発見発信研究 (地域学)

(Ougyo Ichishima)

教授 **市島 桜魚**



工芸 I・II・III・IV、工芸表現法 I・II・III・IV(ab)、絵
 担当科目 : 画工芸基礎 b、金沢まち学特講 a、就職基礎講座、就職対
 策講座、卒業制作・研究 I・II 他
 出身学校 : 石川県立金沢二水高等学校
 学 位 :
 所属学会 : (公社)日本工芸会 日本文化財漆協会 石川県美術文化
 協会
 E-mail : ougyo@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇1990 第37回日本伝統工芸展 優秀賞(NHK 会長賞)蒔絵「秋の野」小箆笥 ◇1992 第39回日本
 伝統工芸展 優秀賞(朝日新聞社賞)平文「星螢」重ね箱 ◇1993 第10回日本伝統漆芸展 蒔絵
 「盛秋」八角箱 紀文美術館買上げ、ステッセルのピアノ復元における蒔絵制作 ◇1994 第50
 回石川県現代美術展 最高賞(技術賞)および50周年記念美術文化大賞 蒔絵「渦波」箱 ◇1995
 第12回日本伝統漆芸展 蒔絵「宙」箱 宮内庁買上げ ◇1996 第13回日本伝統漆芸展 蒔絵「閃
 光」八角箱 国際国流基金買上げ ◇1998 第54回石川県現代美術展 委嘱賞 蒔絵「円」色紙箱
 金沢市買上げ◇1999「日本の工芸<今>100選展」◇2003 日本伝統工芸展50周年記念展「わざの美」
 ◇2004 六葉会-18人の工芸家たち- (日本橋三越本展) ◇1999 名古屋 '01 '06 '10 東京 '08 金
 沢にて個展◇2006 紫綬褒章、2008 北國文化賞、2019 金沢市文化賞

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・平文、蒔絵、螺鈿の研究
- ・用の美：漆椀の魅力、日常と非日常
- ・かたちについて

(Satoshi Suematsu)

特任教授

末松 智

人文学研究科担当



デッサン、絵画演習、図学、ドイツ語 I・II、CG 活用演
 担当科目 : 習 ab、美術文化交流史、西洋美術史、西洋美術特論 ab、
 西洋美術史特論 I・II
 出身学校 : ウィーン美術大学
 学 位 : 学士(芸術)、Magister atrium 「芸術修士号」
 所属学会 : 日本メディカルイラストレーション学会、日本建築学会
 E-mail : suematsu@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「A visual analysis of diamond-shaped turret located in the secondary enclosure of
 Kanazawa Castle」「金沢城二の丸の菱櫓に関する視覚的解析」(日本設計工学会 第1回設計工
 学に関する国際会議)◇作品(歴史考証復元画・油彩画): 金沢城二之丸御殿式台、金沢城鼠多
 門、金沢城丑寅櫓、金沢城色紙短冊積石垣、金沢城辰巳櫓、藩祖前田利家肖像、藩祖正室芳春院
 肖像、三代利常聖母寿福院肖像

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

古代遺跡や人物の歴史的考証とその復元画制作

(Takashi Hiraki)

特任教授

平木 孝志



担当科目 : 日本美術特論 ab、東洋美術特論 ab、絵画 I・II・III・IV、
金沢まち学特講 b、日本美術史、東洋美術史 他
出身学校 : 金沢美術工芸大学大学院
学 位 : 芸術学修士
所属学会 : 美術史学会 儀禮文化学会 茶の湯文化学会 公益法人
日展 新日春会
E-mail : t-hiraki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇日展特選 (2005・1010)、日展審査員 (2018) ◇源氏物語香図五十四帖制作◇長瀬神社天井画
90面・絵馬制作 (新潟県加茂市) ◇本因寺天井画40面・龍図、襖絵制作 (金沢市寺町)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

金沢の伝統文化 茶道と美術工芸 現代日本画の表現

(Ayako Hirone)

教授

広根 礼子



芸術表現基礎 a、デザイン基礎、色彩学 ab、複合表現演習
担当科目 : I、視覚伝達論 ab、デザイン演習 I、卒業制作・研究 I・
II 他
出身学校 : 金沢美術工芸大学 産業美術学部 商業デザイン科
学 位 : 芸術学士
所属学会 : アートミーツケア学会 金沢アートディレクターズクラブ
E-mail : hirone@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「いしかわのようもう」商品開発ーヒツジを活用した地域振興の取り組みー、金沢学院大学紀
要、第 18 号、246-251、2020 ◇ゼミ活動におけるまちなかアート創出 II
ーその場のための展示作りー、金沢学院大学紀要、第 17 号、169-174、2019 ◇ゼミ活動にお
けるまちなかアート創出 Iー見つけることを主題にしたデザインの取り組みからー金沢学院大学
紀要、第 16 号、266-271、2018 ◇デザインによる過疎地域の寺院問題への取り組み、アート
ミーツケア学会 オン ラインジャーナル第 9 号、14-31、2018 ◇デザインによる地域連携の試
み 高精細画像プリントによるクリーニングクロスの開発プロセスとアクティブラーニングの
実践報告、金沢学院大学紀要、第 15 号、285-297、2017

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ①「ケア」を念頭に置いたヒトとコトを繋ぐコミュニケーションデザインの考察
- ②素材研究と質的要素を加味したビジュアルデザインの考察

(Hiroshi Yanagibashi)

教授

柳橋 広司



担当科目 : 絵画 I・II・III・IV、卒業制作・研究 I・II
出身学校 : 金沢美術工芸大学美術工芸学部日本画専攻
学 位 : 学士 (芸術)
所属学会 : (社)日展 石川県美術文化協会 石川県日本画会 京都
日本画家協会
E-mail : yanagibasi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇第60回現代美術展 題名「ダチョウ」 美術文化特別賞 最高賞
- ◇第67回現代美術展 題名「羽ばたく」 美術文化優秀賞 委嘱賞
- ◇改組新 第3回日展 題名「匠」 特選

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他 現代日本絵画の制作

(Kenichi Katou)

准教授

加藤 謙一



博物館概論、博物館資料論、生涯学習概論、博物館経営論、
担当科目 : 博物館実習 I・II、民俗学 I・II、工芸史、文化芸術活用
特論、卒業制作・研究 I・II 他
出身学校 : 関西大学
学 位 : 修士 (文学)
所属学会 : 日本・ミュージアムマネジメント学会 日本展示学会
全日本博物館学会
E-mail : k-katou@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「ミュージアムコレクションをめぐる保存と活用の越境的実践に関する試論～収蔵展示の展示手法と導入動機への分析を通じて～」日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要 (27)、2023年
- ◇「収蔵庫公開事例に関する現地調査報告と検証—原美術館 ARC と静岡市立登呂博物館を対象に—」金沢学院大学紀要(21)、2023年
- ◇「ミュージアムにおける収蔵展示の基礎的研究—調査結果に基づく類型化を中心として—」金沢学院大学紀要(20)、2022年
- ◇「ミュージアムの収蔵展示に関する基礎的研究」金沢学院大学紀要 (19)、2021年3月
- ◇「大学教育で活用できる展示をつくる～「開架閲覧型収蔵展示」の可能性～」『展示学』57号、2019年
- ◇『継承される地域文化—災害復興から地域創発へ』(分担執筆)臨川書店、2021年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・文化財の保存・活用に果たす展示の役割・特に収蔵展示 (visible storage) を中心に調査研究を進めている。

(Hisafumi Koshida)

准教授

越田 久文



芸術表現基礎 ab、メディアデザイン論 ab、映像基礎 ab、
担当科目 : ウェブ応用演習 I・II (ab)、映像論、CM制作 ab、ポスト
プロダクション、卒業制作・研究 I・II 他
出身学校 : 北九州市立大学 中退 専攻:メディア学
学 位 :
所属学会 :
E-mail : koshida@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇卒業研究主要テーマ:ブロードキャスト(放送)とインターネットの補完性
- ◇視聴者参加番組のリアルタイム投票・集計システム設計
- ◇ECサイト「金沢屋」設計・開発

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

地上デジタル放送時代における、ネットと放送の融合

(Fumihiko Haba)

准教授

羽場 文彦



工芸表現法 I・II・III・IV (ab)、工芸 I・II・III・IV、
担当科目 : 工芸演習、絵画工芸基礎 b、基礎造形論 II、美術材料学 b、
卒業制作研究 I・II、美術科教育法 I 等
出身学校 : 金沢美術工芸大学
学 位 : 芸術学修士
所属学会 : 大学美術教育学会
E-mail : fumihaba@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇2005、6年(東京・銀座・フタバ画廊)
- ◇2009、10、11、12、14、15、17、18年(東京・神宮前・トキアートスペース)
- ◇2011年(東京・銀座・ギャラリー SOL)
- ◇2013年(東京・京橋・LIXILギャラリー ガレリアセラミカ) 等

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ①土のもつ可能性を引き出した造形制作
- ②量産技法を使用した作品の展開
- ③ギャラリー等での作品発表
- ④教育素材の研究と授業での活用

(Masashi Honda)

准教授

本田 正史



担当科目 : 美術概論、絵画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、卒業制作・研究Ⅰ・Ⅱ、
キャリアデザインⅠ

出身学校 : 金沢美術工芸大学大学院 上越教育大学大学院

学位 : 修士(芸術学、教育学)

所属学会 : 国画会会員 石川県美術文化協会会員

E-mail : honda-m@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

2021◇第95回国展「戸惑う季節」272.2×324.5cm(国立新美術館)◇第77回現代美術展(金沢21世紀美術館)◇第7回一国画会会員一「ここ・今・ここ」展(名古屋市)◇本田正史展「Large painting selection exhibition 1984-2021」(富山県 アートハウスおやべ) 2022◇第27回北陸国展(石川県立美術館)◇第78回現代美術展審査員(石川県立美術館)◇第96回国展「通過する記憶」292.5×324.5cm(国立新美術館)◇第8回一国画会会員一「ここ・今・ここ」展(名古屋市)◇道の駅学生アートプロジェクト試作展示指導(道の駅高松) 2023◇第28回北陸国展(石川県立美術館)◇第79回現代美術展(金沢21世紀美術館)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

絵画言語である線と色とを画面上で再構築する絵画表現

(Issei Yoshida)

准教授

吉田 一誠



担当科目 : キャリアデザインⅢ、コンピュータ基礎演習Ⅰ・Ⅱ、マ
ルチメディア論 a・b 他

出身学校 : ロンドン大学、ロンドンインスティテュート、ロンドンメ
トロポリタン大学

学位 : MA Fine Art MA Digital Media

所属学会 : 芸術科学会 日本図学会

E-mail : i-yosida@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Issei Yoshida, Nobuhiko Takada, Hidekazu Tsujiai, “Projection Mapping Creation that Targets Town Revitalization – Using Awagasaki Amusement Park in Uchinada Town” International Symposium on Business and Social Sciences 2017 Bali, Indonesia

◇Issei Yoshida, “A Study on the Production of Projection Mapping using Kutani-Ware Platters” Society for Information Technology & Teacher Education International Conference 2016, Savannah, Georgia

◇Issei Yoshida, Nobuhiko Takada, “The Expression of the Traditional Craft Article of Ishikawa Prefecture by Projection Mapping” International Symposium on Business and Social Sciences 2016 okinawa ◇Tokyo Wonder Wall 公募2014 入選 ◇Aomori Print トリエンナーレ2014 入選

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

クリエイティブスキルを活用したまちづくり

(Ryutaro Matsunaga)

講師

松永 龍太郎



担当科目 : 芸術表現基礎 a・b、CG 演習 ab、アニメーション演習 I (実写・クレイ)ab、絵画表現法Ⅲ・Ⅳ(ab)、卒業制作・研究 I・II 他
出身学校 : 東京芸術大学大学院
学 位 : 学士 (芸術学)
所属学会 :
E-mail : r-matsunaga@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇小豆島アートインレジデンス
- ◇フランスジャパン EXPO 出展
- ◇コミックマーケット出展
- ◇個展、グループ展

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

デジタルイラストにおける伝統的素材および表現技法の活かし方についての研究

(Soshi Muratani)

講師

村谷 聡志



担当科目 : 工芸 I・II・III・IV、工芸表現法 I・II・III・IV(ab)、工芸演習、プレゼンテーション基礎 芸術表現基礎 b 他
出身学校 : 金沢学院大学
学 位 : 学士 (芸術学)
所属学会 : 日本工芸会
E-mail : muratani@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇第 22 回日本伝統漆芸展 日本工芸会賞
- ◇第 29 回日本伝統漆芸展 東京都教育委員会賞
- ◇第 68 回現代美術展 次賞
- ◇第 72 回現代美術展 次賞
- ◇第 34 回日本伝統漆芸展 奨励賞
- ◇第 62 回石川の伝統工芸展 北國新聞社社長賞
- ◇第 63 回石川の伝統工芸展 日本工芸会賞

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ①乾漆技法による造形表現の追及
- ②漆芸素材・造形素材・漆芸技法に関する調査と研究
- ③漆芸における 2D、3D ソフトを用いたデジタルモデリングの応用

金沢学院大学 スポーツ科学部

学部長 藤原 勝夫

	教授	准教授	講師	助教
スポーツ科学科	高 賢一 (特任) 外山 寛 (特任) ○福井 卓也 藤原 勝夫 丸山 章子 渡辺 涼子 渡辺 直勇	清田 直恵 武石 健哉	菊政 俊平 安井 孝志	一色 貴史 大田 康介 北島 孟 中村 英里子 野寺 巧寛 藤本 索子 八木 かなえ

○：学科長

(五十音順)

(Kenichi Taka)

特任教授

高 賢一



担当科目 : 教職論、教育学、教育相談

出身学校 : 上越教育大学大学院修士課程 (教育学研究科)

学 位 : 修士 (教育学)

所属学会 : 日本教育心理学会、日本学校教育相談学会

E-mail : k-taka@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

単著『不登校を乗り越えるために』(北國新聞出版局、2017年)、単著『思春期の子どもとどう接するか』(北國新聞出版局、2020年)、単著『家庭で役立つ10代子育てのヒント』(北國新聞出版局、2021年)、単著『子どもの自尊感情をいかに育てるか』(北國新聞出版局、2023年)
◇「不登校を乗り越えるために」(2017年、単著、北國新聞出版局) ◇「不登校だっていいじゃないか」(2016年、単著、アントレックス社) ◇「教務主任の仕事術2(第3章)」(2013年、単著、教育開発研究所) ◇「いじめ・不登校・ひきこもり相談」(2017年、共著、小児内科49巻) ◇「子どもの生きる力を育てるソーシャルスキルの推進」(2015年、単著、金沢星稜大学人間科学研究第8巻第2号)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

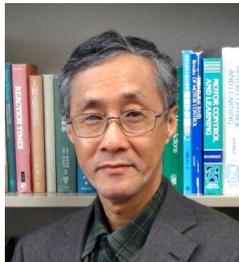
・不登校・いじめ・ひきこもり問題の対応に関する研究・子どもの生きる力を育てるソーシャルスキルに関する研究・「思春期の子どもとどう接するか」(2020年、単著、北國新聞出版局)・「高賢一の実践親子塾」(2018年4月～2021年3月、隔週連載コラム75回、北國新聞文化部)

(Hiroshi Toyama)

特任教授

外山 寛

スポーツ健康学研究科担当



担当科目 : 運動生化学、学校保健、専門演習Ⅱ、運動処方、生理学基礎 他

出身学校 : 東京学芸大学大学院教育学研究科保健体育専攻

学 位 : 博士 (学術)

所属学会 : 日本健康行動科学会 Society for Neuroscience

E-mail : toyahiro@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Changes in body sway and muscle activity with adaptation while standing on an oscillating floor. Health and Behavior Sciences, 13(1), 2014. ◇健康高齢女性における身体活動量、下腿筋力および下腿三頭筋厚の秋期から冬期への変化. Health and Behavior Sciences, 12(1): 2013. ◇Adaptation changes in dynamic postural control and contingent negative variation during backward disturbance by transient floor translation in the elderly. J Physiol Anthropol, 31(12), 2012. ◇Effects of regular heel-raise training aimed at the soleus muscle on dynamic balance associated with arm movement in elderly women. J Strength Cond Res, 25(9), 2011. ◇サポート機能を有する下着着用後の足踏み運動時の身体の非対称性軽減. Health and Behavior Sciences, 9(2): 173-82, 2011. ◇Changes in muscle thickness of gastrocnemius and soleus associated with age and sex. Aging Clin Exp Res, 22(1), 2010. ◇Regular heel-raise training focused on the soleus for the elderly: evaluation of muscle thickness by ultrasound. J Physiol Anthropol, 29(1), 2010. ◇Determination of disturbance parameters of forward floor translation for balance training to prevent falling. Health and Behavior Sciences, 8(1), 2009. ◇Postural muscle activity patterns during standing at rest and on an oscillating floor. J Electromyogr Kinesiol, 16, 2006.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

随意運動の自動化

(Takuya Fukui)

教授 **福井 卓也** スポーツ健康学研究科担当



運動学、競技者育成システム、地域とスポーツ、スポーツ
担当科目 : ツイイベント企画運営、専門演習 I・II、学修基礎、スポーツ科学VII (器械体操・トランポリン) 他
出身学校 : 日本体育大学
学位 : 体育学修士 (日本体育大学)
所属学会 : 日本体育学会、日本スポーツ方法学会、日本健康行動学会、
日本スポーツ歯科医学会
E-mail : fukui@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Effect of clenching on spinal alignment 日本生理学会 (2022) ◇エリートアスリートの競技力に影響する身体的要因: 男子トランポリン選手を対象とした検討. スポーツ歯学第 25 巻第 2 号 (2022) ◇咬合状態がトランポリン競技者の H スコアに与える影響: エリートレベルの男子選手を対象とした検討. スポーツ歯学第 25 巻第 2 号 (2022) ◇トランポリン競技の跳躍高と姿勢制御機能との関連性. スポーツ歯学第 25 巻第 2 号 (2022) ◇トランポリン選手に対するマウスガード装着がストレートジャンプの跳躍時間に与える影響. 日本スポーツ歯科医学会 (2020) ◇次世代ターゲットスポーツ育成支援事業におけるトランポリン選手に対するスポーツ医科学的支援. 日本スポーツ歯科医学会 (2020) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・トランポリン競技における技術の体系化に関する研究
- ・マウスガード装着とスポーツ競技の安全性に関する研究

(Katsuo Fujiwara)

教授 **藤原 勝夫** スポーツ健康学研究科担当



健康科学、運動生理学、機能的解剖学、生命倫理、運動発
担当科目 : 達・老化学、専門演習 I・II、運動生理学特論 等
出身学校 : 筑波大学大学院博士課程体育科学研究科
学位 : 教育学博士
所属学会 : 日本健康行動科学会、Society for Neuroscience
E-mail : fujikatu@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Age-related changes in the activation timing of postural muscles to the prime mover muscle for bilateral arm flexion during standing. Journal of Physiological Anthropology 41(1):20. 2022◇バレーボールのオーバーハンドパスにおける手首と手指の関節運動. Health and Behavior Sciences 20(2): 109-117. 2022. ◇単純反応と自己ペース課題での両側上肢屈曲運動時の姿勢筋の活動タイミング. 大阪総合保育大学児童保育論集 1: 15-22. 2022◇Influence of sports experience on distribution of pro-saccade reaction time under gap condition. Journal of Physiological Anthropology 41;4. 2022◇立位における膝関節屈曲運動に伴う筋活動および関節音. Health and Behavior Sciences 20(1): 31-38. 2021◇立位で圧力を変えて大腿前面皮膚を伸張したときの皮下組織の動態と姿勢応答. Health and Behavior Sciences 20(1): 19-29. 2021◇運動機能解剖学. 北國新聞出版社編集局. 2019◇若年成人における骨盤傾斜に伴う脊柱湾曲変化の性差の三次元分析. Health and Behavior Sciences 19(1): 17-23. 2020. ◇野球の投球動作の概観—身体各部位の協調運動と障害予防をふまえて—. Health and Behavior Sciences, 18(2) 75-80. 2020. ◇サッケード制御系とその経路への頸部前屈保持効果. Health and Behavior Sciences. 18(1), 1-12. 2019. 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

姿勢制御、脳賦活、事象関連脳電位、注意機能、体力

(Akiko Maruyama)

教授 **丸山 章子** スポーツ健康学研究科担当



担当科目 : スポーツコンディショニング論、スポーツコンディショニング演習Ⅰ・Ⅱ、メンタルトレーニング論、オリンピックへの挑戦と指導、スポーツ実技Ⅱ(体づくり・ニュースポーツ)、スポーツ実技Ⅶ(器械体操・トランポリン)

出身学校 : 金沢大学教育学部

学 位 : 教育学修士(金沢大学)

所属学会 : スポーツ心理学会

E-mail : akiko-f@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「陸上競技選手の心理的サポートに関する研究-自己ベストを更新した短距離選手の事例-」共著 金沢学院大学紀要 経営・経済・情報科学・自然科学編第14号 85-91 平成28年3月◇「トランポリン競技選手における心理的スキルトレーニングプログラムの開発-東京オリンピックを目指す3名の選手の事例-」金沢学院大学紀要 経営・経済・情報科学・自然科学編第15号 165-172 平成29年3月◇「トランポリン選手における咬合接触状態と姿勢制御機能の関連」スポーツ歯学第23巻第1号 令和元年9月◇「トランポリン選手に対するマウスガード装着が姿勢制御機能に与える影響」第30回日本スポーツ歯科医学会学術大会プログラム抄録集:104 令和元年◇「トランポリン競技選手における心理的サポートに関する縦断的研究-2020年東京オリンピックを目指す女子選手の心理的変容-」金沢学院大学紀要 経営・経済・情報科学・自然科学編第17号 令和元年3月

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

スポーツ競技の心理的スキルトレーニングの開発、及び心理サポートに関する研究を継続的、発展的に行い、スポーツ競技選手の強化・育成に貢献する。さらにスポーツ歯学的観点からスポーツ選手と歯の関係についての見解を深め、パフォーマンス発揮に有効なマウスガードの開発や咬合接触状態について研究を進める。

(Ryoko Watanabe)

教授 **渡辺 涼子** スポーツ健康学研究科担当



担当科目 : コーチング論、スポーツ技術・戦術論、オリンピックへの挑戦と指導、コーチング演習Ⅰ・Ⅱ、トレーニング論、生涯スポーツ論、スポーツ実技Ⅷ(柔道・剣道) 他

出身学校 : 筑波大学大学院

学 位 : 体育学修士

所属学会 : 日本体育学会 日本武道学会

E-mail : ryoko@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「柔道強化選手と比較した大学柔道選手の精神的特徴」講道館柔道科学研究第12輯 197~204 2008 ◇「アテネオリンピックのメンタルサポーター-日本代表選手のUK分析から」、講道館科学研究会紀要第10編、2005 ◇「全日本女子強化選手の運動機能に関する比較研究」柔道科学研究第1号 7-10 1995 ◇「女子柔道強化選手の体力に関する研究」武道学研究 第24巻 1993 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ① 日本代表柔道選手の成育史に関する研究
- ② 女子柔道選手のコンディション評価
- ③ 柔道における新ルール改正への影響

(Naotake Watanabe)

教授 **渡辺 直勇** スポーツ健康学研究科担当



担当科目 : スポーツ実技Ⅷ(柔道・剣道)、キャリアプランニングⅠ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、スポーツボランティア論
出身学校 : 筑波大学大学院
学 位 : 体育学修士
所属学会 : 日本武道学会
E-mail : naotake@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇柔道の競技レベルが投技評価における異見発生に及ぼす影響について
- ◇現代人のための健康づくり
- ◇「柔道選手における無酸素パワーと有酸素パワーの関係について」筑波大学修士論文 1989
- ◇「一流男子柔道選手の試合前のコンディションづくりに関する実態調査」武道学研究 1997
- ◇「世界強豪選手の組み手と技データ～2001世界選手権」柔道科学研究第8号 2003
- ◇「学生生活におけるマナー意識向上のためのシステムの提案」本教育メディア学会 2010

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ① 柔道選手における体力について ② 柔道競技の審判法について ③ 武道教育について

(Naoe Kiyota)

准教授 **清田 直恵** スポーツ健康学研究科担当



生理学、健康運動演習、健康管理演習、生活習慣病概論、
担当科目 : スポーツ健康学特論、地域スポーツ活用特論、情報科学特論 他
出身学校 : 金沢大学大学院医学系研究科
学 位 : 博士(医学)
所属学会 : Society for Neuroscience 日本生理人類学会 日本健康行動科学会 日本理学療法士協会
E-mail : kiyota@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇バレーボールのオーバーハンドパスにおける手首と手指の関節運動. Health and Behavior Sciences 20(2): 109-117. 2022. ◇立位における膝関節屈曲運動に伴う筋活動および関節音. Health and Behavior Sciences 20(1): 31-38. 2021 ◇若年成人における骨盤傾斜に伴う脊柱彎曲変化の性差の三次元分析. Health and Behavior Sciences 19(1): 17-23. 2020. ◇運動機能解剖学. 第4章「股関節」. 北國新聞社, 2019 ◇Investigation of pro-saccade and finger flexion reaction times in basketball and racket sports players. Health Behav Sci., 17(2):41-46, 2019 高齢者における森歩き運動と水中運動の健康増進効果. Health Behav Sci., 17(2):67-76, 2019 ◇Developmental changes in shortening of pro-saccade reaction time while maintaining neck flexion position. J Physiol Anthropol., 37(1):2, 2018 ◇Timings of attentional switching to perturbation and postural preparation during transient forward or backward floor translation. J Physiol Anthropol., 37(1):1, 2018 ◇Activation timing of postural muscles of lower legs and prediction of postural disturbance during bilateral arm flexion in older adults. J Physiol Anthropol., 36(1):44, 2017 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

姿勢制御、抑制機能

(Kenya Takeishi)

准教授

武石 健哉



球技論、スポーツ実技（ラグビー）、トレーニング論、
担当科目：スポーツトレーナー演習、情報活用演習、地域課題研究
出身学校：筑波大学大学院
学位：修士
所属学会：日本体育・スポーツ・健康学会 スポーツコーチング学会
E-mail：k-takeishi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇7人制ラグビーの攻撃戦術の15人制ラグビーへの応用 単著平成23年9月 仙台大学紀要第42巻1号, pp, 31-39◇7人制ラグビーの防御戦術の15人制ラグビーへの応用 単著 平成24年9月 仙台大学紀要第45巻1号 pp, 11 - 19◇7人制ラグビーの攻撃練習方法 単著 平成26年9月 仙台大学紀要第46巻1号 pp, 29-34◇2017年ワールドラグビー世界的試験実施ルールの検証 共著 平成31年3月 ラグビー科学研究第30巻1号 pp, 10-17◇口頭発表「ルール変更がスクラム戦術に及ぼす影響」—Six Nationsにおける上位3チームと下位3チームの比較— 共同 令和元年10月14-17

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ラグビールールの変遷と戦術の関係

ユニオンラグビーにおけるセットプレーとオープンプレーと勝敗の関係

(Shumpei Kikumasa)

講師

菊政 俊平

スポーツ健康学研究科担当



スポーツ心理学、スポーツ競技の心理、スポーツ統計学、
担当科目：海外文献講読、スポーツ実技 XVII（野球）、専門演習 I・II 他
出身学校：筑波大学大学院 人間総合科学研究科 体育科学専攻
学位：博士（体育科学）
日本体育・スポーツ・健康学会 日本スポーツ心理学会
所属学会：日本コーチング学会 日本スポーツパフォーマンス学会
日本野球学会 North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity
E-mail：kikumasa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ソフトボール選手が集団内で行う打球処理に関する判断の方略. スポーツパフォーマンス研究, 13: 146-162, 2021. ◇試合状況に関する情報が野球の捕手におけるプレー指示場面での状況判断に及ぼす影響. 体育学研究, 65: 237-252, 2020. ◇野球の捕手が2者間で行う打球処理の判断に係る時間的および空間的情報. 体育学研究, 64: 613-624, 2019. ◇野球の捕手におけるプレー指示場面での予測に関する時間的遮蔽を用いた検討. 体育学研究, 63: 685-694, 2018. ◇野球の捕手におけるプレー指示場面での状況判断および視覚探索に関する方略. スポーツ心理学研究, 45: 27-41, 2018. ◇野球の捕手におけるフィールドでの状況判断能力に関する認知的要因の検討. いばらき健康・スポーツ科学, 32: 1-10, 2016.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

集団スポーツにおける状況判断の方略に関する検討

(Takashi Yasui)

講師

安井 孝志



担当科目 : スポーツ実技 XV (サッカー)、スポーツ科学、専門演習 I・II、スポーツ集団の形成と社会 他
出身学校 : 法政大学
学 位 : 学士 (経営学)
所属学会 :
E-mail : yasui@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

【競技歴】◇法政大学 (関東大学サッカーリーグ 1 部優勝・総理大臣杯優勝等) ◇日産自動車 (日本リーグ優勝・天皇杯優勝・JSLCUP 優勝等) 【指導歴・資格】◇国民体育大会成年の部で優勝、富山県立水橋高等学校 (高円宮杯全国ユース大会) ◇U18 ベスト 8、北信越総体優勝 2 回、高円宮杯 U18 プリンスリーグ北信越優勝 1 回) ◇日本サッカー協会 S 級コーチ (日本体育協会上級コーチ) 日本サッカー協会 B 級インストラクター 日本サッカー協会ウェルフェアオフィサー 日本サッカー協会マッチコミッショナー

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

「いつでも・どこでも・だれにでもともに楽しめるスポーツ」の創造・欧州サッカーにおける戦術研究

(Takashi Isshiki)

助教

一色 貴史



担当科目 : スポーツ科学、スポーツ実技 XVI (バスケットボール)、コーチング演習、球技論、情報活用演習、専門演習 I 他
出身学校 : 早稲田大学大学院
学 位 : 修士
所属学会 :
E-mail : issiki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇バスケットボール競技における有効攻撃に関する一考察【修士論文】

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

バスケットボールの戦術に関する研究

(Takeshi Kitajima)

助教 **太田 康介**



スポーツ実技 XV(サッカー I・II)、専門演習 I・II、競

担当科目 : 技者育成システム、スポーツ科学、学修基礎 I・II、サッカー指導演習

出身学校 : 中央大学

学位 : 修士

所属学会 :

E-mail : ko-oota@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

サッカー競技におけるサッカー競技におけるコーナーキックに関する研究
-育成年代カテゴリーの比較検討-

(Takeshi Kitajima)

助教 **北島 孟**



スポーツ科学、トレーニング論、スポーツトレーナー演習、

担当科目 : 体カトレーニング実習、専門演習 I、スポーツ実技Ⅲ(陸上)

出身学校 : 同志社大学

学位 : 修士(スポーツ健康科学)

所属学会 : スポーツ心理学学会

E-mail : t-kitajima@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

Effect of Message-Evoked Pleasant or Unpleasant Feelings on Pre-Performance for Motor Performance and Mood. JOURNAL OF SPORT & EXERCISE PSYCHOLOGY. Vol.42. pp40-41. 2020. 共著. ◇感情喚起フィードバックメッセージがゴルフパッティング学習へ及ぼす影響. Doshisha Journal of Health & Sports Science, 14, pp1-9. 2022. 共著.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

1. レジスタンストレーニング

2. スポーツ活動における言葉かけ

(Eriko Nakamura)

助教 **中村 英里子**

スポーツ実技V (バレーボール)、スポーツ文化論、レク

担当科目 : リエーション論、スポーツ科学、スポーツ実技IV (バドミントン)、コーチング演習、専門演習I・II 他

出身学校 : 金沢学院大学大学院

学 位 : 修士 (スポーツ健康学)

所属学会 : 日本バレーボール学会、日本コーチング学会

E-mail : e-nakamura@kanazawa-gu.ac.jp



I. 主な研究業績・作品等

◇バレーボールのオーバーハンドパスにおける手の関節運動の分析. Health and Behavior Sciences 20(2): 109-117. 2022.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

大学授業におけるバレーボールの試合構造について

(Yoshihiro Nodera)

助教 **野寺 巧寛**

スポーツ法学、スポーツ政策論、スポーツ社会学、スポー

担当科目 : ツ経営管理、スポーツメディア論、スポーツビジネス概論
公務員と法、生命倫理、法律学概論 他

出身学校 : 明治大学大学院

学 位 : 修士 (法学)

所属学会 : 日本法哲学会、日本スポーツ産業学会、日本スポーツ法学
会、法文化学会

E-mail : nodera@kanazawa-gu.ac.jp



I. 主な研究業績・作品等

◇「フランスのドーピング対策法制について」法学研究論集第 50 号 (明治大学大学院), pp. 187-206, 2019 年 2 月. ◇「欧州連合のアンチ・ドーピング: 超国家的法体制の構築に向けて」日本スポーツ法学会年報第 25 号 (日本スポーツ法学会), pp. 110-131, 2018 年 12 月. ◇「フランスにおけるアンチ・ドーピング法の転換期: 1989 年のドーピング法改正をめぐって」法学研究論集第 47 号 (明治大学大学院), pp. 111-130, 2017 年 9 月. ◇「アンチ・ドーピング法とパターンリズム: フランスにおける創生から」法学研究論集第 46 号 (明治大学大学院), pp. 161-182, 2017 年 2 月. ◇「20 世紀中葉のフランスとアンチ・ドーピング法: 「スポーツ競技会における興奮剤の使用の取締りに関する法律案」をめぐって」法学研究論集第 44 号 (明治大学大学院), pp. 137-154, 2016 年 2 月. ◇「欧州連合における食品の安全確保とドーピング予防」日本スポーツ法学会第 26 回研究大会 同志社大学 (京都), 2018 年 12 月. 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

1. スポーツと法の関係 2. 日本国及び諸外国 (特にフランス) のアンチ・ドーピング法
3. 欧州連合のスポーツ法政策 ほか

(Motoko Fujimoto)

助教 **藤本 索子**



スポーツ科学、スポーツ実技IX（ソフトボール）、専門演
担当科目 : 習 I、球技論、コーチング演習 I、オリンピックへの挑
戦と指導
出身学校 : 日本体育大学
学 位 : 修士（体育学）
所属学会 : 日本体育・スポーツ・健康学会、日本健康行動科学会、
日本スポーツ歯科医学会
E-mail : motoko-f@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

○立位における膝関節屈曲運動に伴う筋活動および関節音 Health and Behavior Sciences 20(1): 31-38. 2021.

【競技歴】

2003. 2004. 2009 ベストナイン賞受賞、2008 年北京五輪優勝 紫綬褒章授賞

【指導歴・資格】

2015 年 第 11 回世界ジュニア選手権大会 2 位 (AC)

2018 年 第 7 回アジア女子ジュニア選手権大会 1 位 (AC)

2019 年 第 13 回女子 U19 ワールドカップ 2 位 (AC)

第 8 回アジア U17 アジアカップ 1 位 (AC)

2018. 2019. 2020 年 JOC 強化スタッフ

福岡県スポーツ審議委員

スポーツ庁スポーツ審議委員

2022 全日本大学選手権大会 優勝 コーチ

【資格】ソフトボールコーチ 3

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

チームスポーツにおけるコーチングについて

ソフトボール競技におけるバッティングの動作分析

(Kanae Yagi)

助教 **八木 かなえ**



オリンピックへの挑戦と指導、コーチング演習、スポーツ
担当科目 : トレーナー演習、専門演習 I、トレーニング論、体力トレ
ーニング実習、学修基礎 I・II
出身学校 : 金沢学院大学
学 位 : 学士
所属学会 :
E-mail : yagi@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

◇2012 年ロンドンオリンピック 10 位◇2016 年リオデジャネイロオリンピック 6 位◇2020 年東京オリンピック 11 位◇2013 年ユニバーシアード夏季競技大会 優勝◇世界選手権 5 回出場◇全日本選手権 7 回 優勝

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ウエイトリフティング競技における心技体について

金沢学院大学 栄養学部

学部長 川村 美笑子

	教授	准教授	講師	助教
栄養学科	飯田 範子 川村美笑子 木戸 康博 (特任) 小林 勝義 鈴木 三枝 七尾由美子 畑山 千春 (特任) 林 直之 宮本佳代子 (特任) ○渡邊 琢夫	大谷 千晴 西村 栄恵 山本 武		

○：学科長

(五十音順)

(Noriko Iida)

教授 **飯田 範子**



担当科目 : 給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理基礎実習、給食経営
管理応用実習、校外実習(給食の運営)
出身学校 : 北海道栄養短期大学
学 位 :
所属学会 : 日本給食経営管理学会評議員 日本臨床栄養学会 日本
栄養改善学会
E-mail : n-iida@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇著書『給食実務必携』共著、第一出版(2013.2017) ◇『病院給食業における業務、労務管理の実践』単書、雇用・能力開発機構(2008) ◇『病院給食業におけるクレームの対応と対策』単書雇用・能力開発機構(2008) ◇イラストによる食物摂取調査及び結果が食生活改善に効果報告(2015) -日本健康体力栄養学会 ◇長期入院患者へのアミノ酸配合ゼリーによる栄養改善効果について(2009) -日本臨床栄養学会誌 ◇食品成分表の調理加工食品群の収載食品への期待(2010) -日本栄養改善学会誌 ◇コントラクトにおける栄養コンサルティングの実際(2007) -日本給食経営管理学会 ◇21世紀の食事サービスの向上に関する研究(2002, 2003, 2004) -日本メディカル給食協会

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

①フードサービスマネジメントにおける給食及び調理実務の効率的な展開 ②大量調理における食品の選択と調理技術の効率的な方法

(Mieko Kawamura)

教授 **川村 美笑子**



担当科目 : 基礎栄養学、応用栄養学、応用栄養学演習、基礎栄養科学
実験、総合演習、実践栄養学特論Ⅰ 他
出身学校 : 東北大学大学院農学研究科博士後期課程中途退学
学 位 : 農学博士(東北大学)
所属学会 : 日本栄養学教育学会評議員 日本微量元素学会 他
E-mail : m-kawamura@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Inter- and intra-individual variation of food and nutrient consumption in a rural Japanese population. European Journal of Clinical Nutrition. 52:781-785(1999) 共著 ◇ Dietary habits and nutrient intake in non-alcoholic steatohepatitis. Nutrition. 23: 46-52(2007) 共著 ◇Metabolic analysis of vanadate and effect on neurochemical behavior as a result of chronic oral administration of vanadate. Trace Elements in Man and Animals, NRC Research Press, Canada. 220-223(2008) 共著 ◇食環境は脳機能にどのような変化を与えるか. FOOD STYLE. 21(8):42-48(2014) 単著 ◇川村美笑子: 子どもの食物. 22-39, 秋田喜代美(監修) 乳幼児の発達と保育 -食べる・眠る・遊ぶ・繋がる-, 朝倉書店(2019) ◇Relationship between the sense of confidence regarding dietary life and the nutrient intake of pregnant women. 金沢学院大学教職センター-紀要, 第4号: 293-305(2021) 共著

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

△必須微量元素の代謝と栄養的修飾
△食環境に由来する複合要因と脳・小腸機能に関する栄養生理学的研究
△地域の特性を重視した栄養生理学・栄養保健学の成果を社会システムの中に位置づける研究

(Yasuhiro Kido)

特任教授

木戸 康博



担当科目 : 健康栄養学概論、地域課題研究 I・II、生物基礎、化学基礎、他
出身学校 : 徳島大学大学院栄養学研究科
学 位 : 博士 (栄養学)
所属学会 : 日本栄養食糧学会、日本栄養改善学会、日本栄養学教育学会、日本臨床栄養学会、日本アミノ酸学会 他
E-mail : y-kido@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ギリシャヨーグルトの摂取が体重、体組成、筋力、身体機能、体感に与える影響. *薬理と治療*, 50, 877-886 (2022) ◇食事誘発性体熱産生に対する 5-アミノレブリン酸リン酸塩とクエン酸第一鉄ナトリウムの生理作用に関する研究. *ALA-Porphyrin Science*, 11, 13-25 (2022) ◇An evaluation of the protein requirements of Japanese young men by consuming two type of dairy proteins using the indicator amino acid oxidation method. *J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo)*, 68, 383-389 (2022) ◇市民ランナーを対象とした食行動と食意識に関する調査. *日本スポーツ栄養研究誌*, 14, 59-68 (2021) ◇学童保育施設における児童の栄養状態を反映したおやつ提供のあり方の検討. *日本栄養士会雑誌*, 64, 31-38 (2021) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

◇たんぱく質の必要量に関する研究 ◇疾病時の栄養管理と栄養療法に関する研究

(Katsuyoshi Kobayashi)

教授

小林 勝義



担当科目 : 公衆衛生学、保健統計学、生物学基礎、健康管理概論、社会福祉概論
出身学校 : 自治医科大学、国立公衆衛生院専門課程
学 位 : 医学士
所属学会 : 日本公衆衛生学会、北陸公衆衛生学会 (評議員、編集委員)
E-mail : k-kobayashi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

1. 社会・環境と健康 公衆衛生学 2023 年版, 医歯薬出版社 (共著)
2. 分煙推進会議の取り組み 石川県下の分煙推進事業, 公衆衛生, 63 巻 11 号, 793-795
3. 島にありて, 都道府県展望, 579 号 7, 全国知事会
4. 保健事業のコンピュータ化について, 厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるに当たっての母子保健事業策定に関する研究」平成元年度研究報告書, 143-144
5. 身体障害者のためのコンピュータ利用環境を考える, 北陸と公衆衛生, 第 34 号, 17-25, 北陸公衆衛生学会

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

健康危機管理体制の最適化
食中毒、感染症の実地疫学調査を支援するシステム

(Mie Suzuki)

教授 **鈴木 三枝**



担当科目 : 公衆栄養学、地域栄養演習、公衆栄養活動論、公衆栄養学
実習、臨地実習Ⅲ(公衆栄養)
出身学校 : 相模女子大学
学 位 : 家政学士
所属学会 : 日本公衆衛生学会, 日本栄養改善学会, 日本健康学会
E-mail : suzuki-m@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇給食施設における臨地・郊外実習の現状と課題～臨地・郊外実習生受託者を対象とする調査研究報告～(共著)2010 昭和女子大学大学院生活機構研究科紀要 Vol. 19◇臨地実習の課題と今後の方向性 保健の科学 2011. 3Vol153◇管理栄養士養成における「包括的計画論—workshop 方式」の教育効果について(共著)日本公衆衛生学会 2009(P586)、2010(1505-4)◇大学生の参加による地域住民主体型介護予防活動の活性化(共著)日本民族衛生学会 2016【著書】◇健康づくり栄養指導事例集Ⅱ～地域における指導記録から～(共著)1992 第一出版◇栄養士のための栄養指導論(第6版)(共著)2019 学健書院◇エスカレーター式栄養指導論(第8版)(共著)2019 同文書院◇公衆栄養学(第7版)(共著)2019 光生館◇給食実務者必携(共著)2020 第一出版◇公衆栄養学実習(共著)2020 第一出版

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他 高齢者のフレイル状態と健康な生活について

(Yumiko Nanao)

教授 **七尾 由美子**



栄養教育論Ⅰ・Ⅱ、栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ、栄養情報処理
担当科目 : 演習、学修基礎Ⅰ(プレゼミⅠ)、就職基礎講座、就職対策講座
出身学校 : 東京家政大学
学 位 : 博士(学術)東京家政大学
所属学会 : 日本栄養改善学会、日本食生活学会、日本食育学会 他
E-mail : nanao@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇モデル地区の住民を対象とした健康増進プログラムの試み ◇児童のお手伝い行動と「食に関する感謝の念」の関連性～性別による違いの検討～ ◇カフェテリア方式での料理の並び順は食事選択に影響するか第1～5報 ◇公衆衛生学(分担執筆), (第三版)学文社(2018) ◇新応用栄養学(分担執筆), 学文社(2020) ◇栄養教育・指導実習(分担執筆), 建帛社(2020)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ナッジ理論の食生活への応用, 大学生の食生活の実態調査, 子どもの食育に関する研究, 管理栄養士養成のためのプログラム検討 他

(Chiharu Hatayama)

特任教授

畑山 千春



担当科目 : 学校栄養教育法、栄養教育実習事前事後指導、教職実践演習(栄養教諭)、食に関する指導法、子どもの食と栄養
出身学校 : 北陸学院短期大学
学 位 :
所属学会 :
E-mail : hatayama@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

チーム学校で取り組む食育推進における栄養教諭の役割についての一考察 (北陸学院大学・北陸学院短期大学部「教職課程研究」第9号)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

(Naoyuki Hayashi)

教授

林 直之



担当科目 : 生化学 I・II、生化学実験、生物有機化学、化学基礎 他
出身学校 : 大阪大学大学院工学研究科
学 位 : 工学博士
所属学会 : 日本遺伝学会 日本分子生物学会 日本生化学会 日本癌学会
E-mail : n-hayashi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

Altered metabolic regulation owing to gsp1 mutations encoding the nuclear G protein in *Saccharomyces cerevisiae*. *Curr Genet* 66:335-344 (2020) 共著 ◇MicroRNA-140 mediates RB tumor suppressor function to control stem cell-like activity through interleukin-6. *Oncotarget* 8:13872-13885 (2017) 共著 ◇Regulatory interactions between NBS1 and DNMT1 responding to DNA damage. *J Biochemistry (Tokyo)* 154:429-435 (2013) 共著 ◇ATM mediated pRB function to control DNMT1 protein stability and DNA methylation. *Mol Cell Biol* 33:3113-3124 (2013) 共著 ◇NBS1 directly activates ATR independently of MRE1 and TOPBP1. *Genes Cells* 18:238-246 (2013) 共著 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

代謝調節における信号伝達機構

(Kayoko Miyamoto)

特任教授

宮本 佳代子



臨床栄養学 I・II、臨床栄養学実習、臨地実習事前・事後
担当科目 : 指導 I・II、臨地実習 I (臨床栄養)、総合演習、卒業研究
I・II
出身学校 : 女子栄養大学
学 位 : 体育学
所属学会 : 日本糖尿病学会、日本透析医学会、日本病態栄養学会、日
本臨床栄養学会、日本栄養改善学会
E-mail : kayoko-m@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇深津章子、宮本佳代子、大久保研之、池本真二；若年女性において低炭水化物食に伴う高脂肪食摂取はセカンドミール後のインスリン抵抗性を惹起する、糖尿病 2018 年 61 巻 10 号 p. 678-685。
◇深津章子、宮本佳代子、大久保研之、池本真二；肥満者における緩やかな炭水化物制限に脂肪酸の指導を加える影響：実践的な栄養指導プログラムの検討、日本臨床栄養学会誌 2019 年 41 巻 5 号 p152-163。
◇宮本佳代子、佐藤敏子、茂木さつき、荒川 由起子、手塚洋子、田部井薫；腎臓病 透析患者さんのための献立集、女子栄養大学出版。宗像伸子、宮本佳代子、横山淳一監修、宗像伸子、宮本佳代子他 18 名；ビジュアル 治療食 300、医歯薬出版

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

2 型糖尿病患者のサルコペニアと栄養摂取との関係
2 型糖尿病の糖質摂取

(Takuo Watanabe)

教授

渡邊 琢夫



担当科目 : 解剖生理学、解剖生理学実験、病態生理学 I・II・III
出身学校 : 東北大学医学部 同大学院医学系研究科
学 位 : 医学博士
所属学会 : 日本生化学会 日本糖尿病学会
E-mail : takuo@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Regulation of alternative splicing of the receptor for advanced glycation endproducts (RAGE) through G-rich cis-elements and heterogenous nuclear ribonucleoprotein (hnRNP) H. J. Biochem., 147, 651-659 (2010). 共著
◇Reduced expression of endogenous secretory receptor for advanced glycation endproducts in hippocampal neurons of Alzheimer's disease brains. Arch. Histol. Cytol., 70, 279-290 (2007). 共著
◇Endogenous secretory receptor for advanced glycation end-products inhibits amyloid- β 1-42 uptake into mouse brain. J. Alzheimers Dis., 28, 709-720 (2012)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

生活習慣病の病態、予防及び治療

(Chiharu Oya)

准教授

大谷 千晴



担当科目 : 食生活論、栄養アセスメント 他
出身学校 : 静岡県立大学 食品栄養科学部 栄養学科
静岡県立大学大学院 食品栄養科学専攻 (修士課程)
学位 : 修士
公益社団法人 日本栄養士会
公益財団法人 石川県栄養士会
所属学会 : 一般社団法人 日本健康・栄養システム学会
一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会
特定非営利活動法人 日本栄養改善学会
E-mail : oya@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇平成 28 年度厚生労働省栄養ケア活動支援整備事業「在宅療養者支援のための調査および多職種連携に向けた栄養ケアステーションの構築」◇「公益社団法人石川県栄養士会受託 平成 28 年度厚生労働省栄養ケア活動支援事業より 在宅療養者支援のための調査および多職種連携研修会開催により得られたこと」(医歯薬出版株式会社 臨床栄養 Vol.136 No1 2020.1) ◇在宅復帰・転院時の栄養サポート 栄養情報提供書の作成と活用のポイント「病院から転院・施設移転するときに、栄養面で起こりうる問題はなに？」(メディカ出版ニュートリションケア 2020 Vol.15 no.2)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

◇医療・介護施設における食事形態の情報共有化への取り組み
◇医療・介護施設間での多職種連携と管理栄養士の関わり

(Sakae Nishimura)

准教授

西村 栄恵



担当科目 : 調理学、調理学実習 I～IV
出身学校 : 中村学園大学大学院栄養科学研究科
学位 : 修士(栄養科学)
所属学会 : 日本栄養改善学会、日本食育学会、日本栄養士会
E-mail : sakae-n@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇食育共創論～地域密着と世代重視の実践から食の未来を拓く～, 共著, 筑波書房 (2021) ◇三訂マスター応用栄養学, 共著, 建帛社 (2015) ◇新・ライフステージの栄養学実習, 共著, ドメス出版 (2010) ◇大学生の相対的貧困と社会経済状況、食生活・生活状況に関する研究, 日本食育学会誌 Vol.16 No.1, 29-41 (2022) ◇大学生の食生活状況と相対的貧困、居住形態との関連, 共同, 第 68 回日本栄養改善学会 栄養学雑誌 Vol.79-5 (2021) ◇若年女性の弁当づくり支援による栄養教育効果の検討, 共同, 第 68 回日本栄養改善学会 栄養学雑誌 Vol.79-5 (2021) ◇高温高压加工魚の活用可能性の検討, 共同, 第 67 回日本栄養改善学会 栄養学雑誌 Vol.78-5 (2020)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

青年期の食生活に関する研究 他

(Takeshi Yamamoto)

准教授

山本 武



担当科目 : 食品学 I・II、食品学実験、食品衛生学、食品衛生学実験、
食品機能論、食品微生物学、フードスペシャリスト論
出身学校 : 静岡県立大学薬学部、同大学院生活健康科学研究科
学 位 : 博士 (食品栄養科学)
所属学会 : 日本アレルギー学会、和漢医薬学会
E-mail : takeshi-y@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Yamamoto T., Katsuki Y., Kanauchi Y., Hayashi S., Kadowaki M.: Allergic inflammation disrupts epithelial electrogenic electrolyte transport through cholinergic regulation in the mouse colon. . Biomedical Research (Japan), 44, 31-40. (2023)◇Kanauchi Y., Yamamoto T. (equally contributed), Yoshida M., Zhang Y., Lee J., Hayashi S., Kadowaki M.: Cholinergic anti-inflammatory pathway ameliorates murine experimental Th2-type colitis by suppressing the migration of plasmacytoid dendritic cells. Sci Rep. 2022 12: 54 (2022)◇Zhang Y., Yamamoto T., Hayashi S., Kadowaki M.: Suppression of plasmacytoid dendritic cell migration to colonic isolated lymphoid follicles abrogates the development of colitis. Biomed Pharmacother. 141: 111881. (2021)◇Yamamoto T., Nagata Y., Hayashi S., Kadowaki M.: Isoflavones Suppress Cyp26b1 Expression in the Murine Colonic Lamina Propria. Biol. Pharm. Bull., 43:1945-1949. (2020)◇Yamamoto T., Zhang Y., Kigasawa A., Hayashi S., Kadowaki M.: Therapeutic Benefit in Allergic Dermatitis Derived from the Inhibitory Effect of Byakkokaninjinto on the Migration of Plasmacytoid Dendritic Cells. Evid. Based Complement. Alternat Med., 9532475. (2020)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

◇食物アレルギーの治療および発症予防に関する研究
◇腸管粘膜免疫系の制御に関する研究 他

金沢学院大学 基礎教育機構

機構長 桑野 裕昭

教授	准教授	講師	助教
(桑野 裕昭*(情)) 土農 力	中村 晋也 (中村 直行(経))	板垣 真任 嶋村 貢志 中川恵理子 (水橋 雄介*(文)) 宮永隆一朗	

※ () は兼務先学部

〈五十音順〉

(Riki Shino)

教授 **士農 力**



担当科目 : 地誌 他

出身学校 : 金沢美術工芸大学

学 位 : 芸術学修士

公益社団法人日展会員 一般財団法人石川県美術文化協会

所属学会 : 理事 一般社団法人日本美術家連盟会員 京都日本画家協会
会員 青塔社会員

E-mail : riki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇日展入選「埠頭」「HONG KONG' 90」「Brooklyn Brigde」他 (1987~2003) ◇日春展入選・受賞・
会員出品 (1987~2015) ◇文化庁芸術インターンシップ研修員 (1995) ◇現代美術展美術文化大賞「サ
ンプランシスコ」 (1996) ◇日展特選「Lex.Avenue」 (2000) ◇日展特選「Montparnasse」 (2003)
◇日展無鑑査・出品委嘱。「闘牛場の見える街」他 (2004~2006) ◇全関西美術展審査員 (2005) ◇
現代美術展審査員 (同'99,'01,'04,'08,'11,'20,'23) ◇日展審査員 (2007) ◇日展会員出品 (2008
~) ◇金沢市文化活動賞受賞 (2008) ◇日展会員賞「THE BRONX」 (2011) ◇「こころの京都」百選展 (京
都府) に「あまのはしたて」出品 (2013) ◇「中町力日本画展」NEW YORK Drawing & Painting - (永
井画廊 2013) ◇紺綬褒章 (2013) ◇Saion des Beaux Arts 2014 (SNBA 展パリ・ルーブル) 審査員賞◇
第1回石川県文化奨励賞 (2016) ◇「金沢を歩く」士農カスケッチ展 (石川県立歴史博物館ギャラリー
-2016) ◇「旅する日本画士農力作品集」 (飛鳥新社・2019) ◇「令和の東京百景」シリーズ (2021)
◇「絵になる東京」講演 (一般財団法人都市防災研究所主催、日本外国特派員協会にて 2022) ◇鼎
談「表現と文化」楊逸・小谷忠典・士農力 (武蔵野大学文学部公開講座 2022)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

写生取材及び日本画作品の制作と発表

(Shinya Nakamura)

准教授 **中村 晋也**



保存科学概説 I・II、保存科学演習 I・II、文化財と自然

担当科目 : 科学、文化財の保護と活用、考古学実習 I・II、FSP 講座、
キャリアデザイン I、キャリアプランニング I・II

出身学校 : 奈良大学文学部文化財学科

学 位 : 文学士

所属学会 : 日本文化財科学会 文化財保存修復学会 (理事)

E-mail : nakamura@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇能登半島地震における復興支援活動-被災資料の調査・修復から復興へ- (文化財の保存と修復
-災害から文化財をまもる- : 2012 年) ◇トレハロースを使用した真空凍結乾燥法による出土木
材の保存処理研究 (日本文化財科学会第 31 回大会研究発表要旨集 : 2014 年) ◇石川県内遺跡出
土ガラス資料の自然科学的研究①-材質・製作技法からみたガラス資料の再検討- (石川県埋蔵文
化財情報第 35 号 : 2016 年) ◇子浦小谷屋横穴古墳群・聖川寺山横穴古墳群 (宝達志水町) 出土
耳環の自然科学的研究 (金沢学院大学紀要 18 号 : 2019 年) ◇大津祭曳山「郭巨山」の妻人形、
童子人形の修理事例 (文化財保存修復学会第 42 回大会研究発表要旨集 : 2020 年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ①無機質文化財資料(ガラス、青銅製品など)の材質・技法に関する研究
- ②出土木製品の保存処理に関する研究
- ③文化財の防災・減災に関する研究

(Itagaki Masato)

講師 **板垣 真任**



基礎英語 I・II、英語プレゼンテーション初級 I・II、
 担当科目 : 英米文学概論 II、英米文学講読 I、Japanese Culture
 through English
 出身学校 : 成蹊大学大学院文学研究科英米文学専攻
 学 位 : 修士 (文学)
 所属学会 : 日本英文学会、日本アメリカ文学会、日本メルヴィル学会
 E-mail : itagaki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「声を書くということ—「ビリー・バッド」における草稿とビリーの吃音」下河辺美知子 (監)、高瀬祐子、日比野啓、舌津智之、巽孝之 (編著) 『アメリカン・マインドの音声—文学・外傷・身体』小鳥遊書房、2019年、209-234頁。◇「響きのテキスト—*The Scarlet Letter*のディムズデイル論」*artes liberales*. 第32号、日本工業大学共通教育学群、2022年、12-20頁。◇「声と暴力、そして個人—“Billy Budd, Sailor”における言語障害」『成蹊大学人文研究』第25号、成蹊大学、2017年、1-20頁。

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

18-19世紀アメリカ文学における発声・吃音・聞き取りの表象

(Koji Shimamura)

講師 **嶋村 貢志**



担当科目 : 英語 I・II、英語プレゼンテーション初級 I・II、英語
 コミュニケーション I・II
 出身学校 : University of Connecticut
 学 位 : Ph.D. in Linguistics
 所属学会 : 日本言語学会
 E-mail : k-shimamura@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

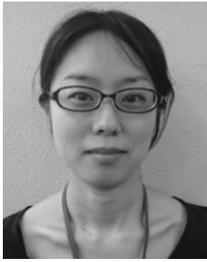
◇Shimamura, Koji. 2021. SAYING Appositive Clause and Its Relevance to Hearsay-ish Construction in Japanese. *Proceedings of Japanese/Korean 28* (Poster Session), CSLI Publications. ◇Shimamura, Koji. 2021. Against Embedded Modal as Control in Japanese-Its Relevance to the Implicational Complement Hierarchy. In *The Size of things I: Structure Building*, 131-152, Language Science Press ◇Shimamura, Koji. 2021. Clausal Nominalization and Nominative-Genitive Conversion in Japanese. *Proceedings of SICOGG 23*, 181-197 ◇Shimamura, Koji. 2020. Why Scrambling and Argument Ellipsis? Two Asymmetries between Japanese and English. 第160回日本言語学会大会 予稿集, 98-104 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本語の引用補文、新ディビッドソン主義事象意味論と項構造の廃止 (田中秀治氏 (三重大学) との共同研究、科研費若手研究 ~2022年度)、日本語の節名詞化 (那須紀夫氏 (神戸市外国語大学)、秋本隆之氏 (工学院大学)、依田悠介氏 (東洋学園大学) との共同研究) 他

(Eriko Nakagawa)

講師 **中川 恵理子**



担当科目 : 図書館概論、情報サービス論、情報サービス演習、情報資源組織論、情報サービス演習、情報サービス論 他
 出身学校 : 武庫川女子大学 金沢学院大学大学院
 学位 : 学士(文学) 修士(文学)
 所属学会 : 日本図書館研究会 大学図書館問題研究会 日本読書学会
 E-mail : e-naka@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「「こころ」からみる戦後高校生の名作意識の変遷-高度経済成長期と高度経済成長期以降の比較-」(大学図書館問題研究会誌 第46号 2020年8月) ◇『青春の門』論—高校生読者の視点から— (金沢学院大学紀要 第17号 2019年3月) ◇金沢学院大学図書館における読書支援の事例報告—ブックシェアの取り組み— (大学図書館問題研究会誌 第44号 2018年4月) ◇利用者調査を踏まえた学修支援サービスの展開—金沢学院大学図書館における事例— (金沢学院大学紀要 第15号 2017年3月) ◇「利用者調査を踏まえた学修支援サービスの展開—金沢学院大学図書館における事例—」(金沢学院大学紀要 第15号 2017年3月) ◇「金沢学院大学図書館における読書支援の事例報告—ブックシェアの取り組み—」(大学図書館問題研究会誌 第44号 2018年4月) ◇「青春の門論—高校生読者の視点から」(金沢学院大学紀要 第17号 2019年3月)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

大学図書館の利用促進について 司書課程履修者のこれまでの図書館利用状況について 高度経済成長期以降の高校生の読書傾向の変化について

(Ryuichiro Miyanaga)

講師 **宮永 隆一郎**



担当科目 : 英米文化論 I・II、英米文学研究法、英語 I・II、基礎英語 I・II、英語プレゼンテーション初級 I・II
 出身学校 : 一橋大学
 学位 : 修士(博士課程単位取得)
 所属学会 : 日本アメリカ文学会、日本英文学会、カルチュラルスタディーズ学会
 E-mail : miyanaga@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「我々の「子供への愛」イデオロギー：リチャード・パワーズ『さまよえる魂作戦』『アメリカ文学研究』46 (2010), 33-49. ◇“Absence of Bikini, or the Cold War Boyology in William Golding’s Lord of the Flies.” Critique: Studies in Contemporary Fiction. 58:5 (2017), 498-508. <<http://www.tandfonline.com/doi/abs/10.1080/00111619.2017.1321523>> ◇「(想像できない) ユートピアへ向けて：Arthur C. Clarke, Childhood’s End、三島由紀夫『美しい星』、冷戦期反ユートピア主義」、『年報カルチュラル・スタディーズ』5 (2017), 59-78. ◇「It’s About Time—クィア・エイジングの理論へ向けて、または映画『ベンジャミン・バトンの数奇な人生』とポジティブ・エイジングのイデオロギー」、『年報カルチュラル・スタディーズ』8 (2020), 59-81. ◇「僕のママはレズじゃない—Jacqueline Woodson, From the Notebooks of Melanin Sun (1995) における black nationalism とクィアな成長」、『Tinker Bell』66号, 67-82. 英語圏児童文学学会50周年記念論文賞佳作.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

Queer temporality (esp. queer ageing); gentrification and neoliberalism; Cold War liberalism and the figure of “child” in American literature

金沢学院短期大学

- 現代教養学科
- 食物栄養学科
- 幼児教育学科

金沢学院短期大学

学 長 高他 毅

	教授	准教授	講師	助教
現代教養学科	○小里 千寿 村上 智 松井 良雄	大池 淳一 児島新太郎	杉本亜由美	橋高 朱里
食物栄養学科	大西 孝司 (特任) 高他 毅 ○ (七尾 由美子) 原田 澄子	安藤 秀子 安嶋まなみ	多田 邦宏 平山 雄大 南 友美	
幼児教育学科	鈴木 賢男 寺田 達也 ○吉田 若葉	砂山真喜子 高木香代子 (特任)	大竹 留美 棒田 美江	白江 寿美

○: 学科長

※ () は大学兼務

(五十音順)

(Chizu Kosato)

教授 **小里 千寿** 人文学研究科担当



担当科目 : キャリアデザインⅠ～Ⅲ、インターンシップ、キャリアプランニング、F S P講座、人的資源管理、情報と職業 他
出身学校 : 法政大学大学院、金沢学院大学大学院
学 位 : 博士 (経営情報学)
キャリアデザイン学会、労務学会、労働政策研究・研修機構
所属学会 : 構 (JILPT)、日本産業経済学会、キャリア教育学会、日本産業教育学会 他
E-mail : kosato@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

◇著書・インターンシップで始める就『勝』本、日本法令 (論文) ◇サービス業に従事する派遣労働者の技能形成 - 婚礼司会者の事例 - (単著) (芝浦工業大学研究報告 VOL. 47 (人文系編 ISSN0386-3107) (P. 109~P. 114)) ◇技能伝承の短期化に向けた実態調査 (共著) (拓殖大学国際開発学研究 VOL. 13 NO. 1 (P. 79~P. 103)) ◇THE EFFECTIVENESS OF SUPPORT SYSTEMS IN MANUFACTURING (製造業における技能伝承サポートシステムの有効性) (共著) (7th SETUC SYMPOSIUM, INDONESIA, South East Asian Technical Universities Consortium) ◇文系大学生を対象とした1・2年生向けプログラムー産学連携によるプレインターンシップの事例紹介ー (共著) (産業経済研究 第17号 (P. 3~P. 16)) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

キャリアデザイン、キャリア発達、技能形成、労働者の意識、人材開発 (HRD)、人的資源管理 (HRM) など。職業選択の要因となるもの、適性とは、また、職業によって人はどのように変化・発達していくのか等、労働に関する調査・研究をしています。

(Satoshi Murakami)

教授 **村上 智**



国内旅行業実務、海外旅行業実務、国内／海外観光地理
担当科目 : ホテルブライダル概論、ホテル実務、ブライダル実務、観光学概論、総務・労務管理、基礎ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ 他
出身学校 : 新潟大学
学 位 : 法学士
所属学会 : 日本観光学会 観光学術学会 コンテンツツーリズム学会
E-mail : s-murakami@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

◇道の駅巖美溪の研究◇石川県インバウンドの研究◇日本史をコンテンツとした観光研究
◇マス・ツーリズムの再評価について

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

◇コンテンツツーリズムの研究
◇文化観光の研究

(Yoshio MATSUI)

教授

松井 良雄



担当科目 : ビジネスソフト基礎・応用・発展Ⅰ・Ⅱ、情報処理Ⅰ・Ⅱ、プログラミング基礎演習・応用演習、就業力実践、学修ゼミⅠ(キャリア)、学修ゼミⅡ(地域課題)、学修ゼミⅢ(卒業研究)

出身学校 : 金沢大学大学院工学研究科機械工学専攻

学 位 : 博士(工学)

所属学会 : 日本機械学会、ターボ機械協会、日本生物環境工学会

E-mail : matsui@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ワサビのクロフィル蛍光特性と水耕栽培生育環境因子との関係, 日本生物環境工学会 2022年福岡大会, 2022-9. ◇ワサビ葉面電位応答特性に基づくSPAの至適生育環境因子, 日本生物環境工学会 2021年北信越支部大会(ZOOM開催), 2021-12. ◇情報教育(コンピュータ実習)におけるスキルアップの方策, 金沢学院短期大学紀要, 第18号, 2020-3, p.49-59. ◇SPA型植物工場に向けた植物生理活性の非接触計測の試み, 日本生物環境工学会 2019年千葉大会, 2019-9. ◇学生に返却する課題シートに教員からのコメントを記入した場合の教育的効果について(第3報), 金沢学院短期大学紀要, 第17号, 2019-2, p.41-50.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

◇LED光源を活用した茸類やワサビの栽培効率改善に関する研究 ◇短期大学生の情報処理能力向上を目指した教育方法の検討 ◇シャトルカードを活用した教育指導と勉学意欲の向上について ◇科学の話題や数学・理科の基礎教育における授業活性化の取り組み

(Takashi Ohnishi)

特任教授

大西 孝司



担当科目 : 公衆衛生学、食品衛生学、食品学総論・各論
食品衛生学実験、食品学実験

出身学校 : 金沢大学大学院医学研究科

学 位 : 修士(薬学)、博士(医学)

所属学会 : 日本予防医学会、北陸公衆衛生学会

E-mail : onishi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

『著書』◇「管理栄養士養成課程【栄養管理と生命科学シリーズ】社会・環境と健康」(共著)、2011、理工図書株式会社◇「公衆衛生学」(共著)、2014、株式会社光生館『論文』◇「外食栄養成分表示の方法論に関する検討—新規開拓に向けて—」(共著)、2014、日本予防医学会雑誌◇「四疾患に効果があると考えられる薬膳の効能・効果の評価について—東洋医学的観点と西洋医学的観点からの実証」(共著)、2015、ノートルダム清心女子大学紀要◇「外食における食環境整備のあり方に関する検討」(共著)、2015、日本予防医学会雑誌『学会発表』◇「管理栄養士養成施設学生における食品衛生監視員資格取得に関する意識調査」(共著)、2018、日本予防医学会学術総会◇「高齢者施設における災害時食体制の現状と課題」(共著)、2018、日本栄養改善学会学術総会◇「元気高齢者の食支援体制のありかたに関する検討」(共著)、2019、岡山県保健福祉学会

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

機能性表示食品、薬膳・薬草料理、いわゆる健康食品等の有効性(EBM)評価方法に関する検討

(Sumiko Harada)

教授 **原田 澄子**



担当科目 : 調理学、調理学実習 I (実験含む)、応用調理学実習、献立作成演習、栄養士基礎演習 I・II、健康管理概論
出身学校 : 愛媛大学 大学院
学 位 : 農学修士
所属学会 : 日本栄養改善学会 日本調理科学学会 日本栄養士会
E-mail : harada@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇幼児の食事に関する調査研究◇女子短大生の食習慣と BMI、骨量の関連について◇学内給食実習の献立における一考察-加熱前、加熱後の重量変化およびミネラルの分析について◇園児・児童の食事作りの指導、親子料理教室、料理コンクール審査員等◇富山県の日常食、行事食、郷土食に関する調査研究著書◇とやまの郷土料理 (春・夏編、秋・冬編)、伝統食品・食文化 in 金沢-加賀・能登・越中・永平寺一、小児栄養学総論、食生活論、給食経営管理実習等 共著

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

次世代に伝え継ぐ 富山の家庭料理 親子食育講座

(Masao Suzuki)

教授 **鈴木 賢男** 人文学研究科担当



担当科目 : 地域と子ども I・II、教育心理学、情報処理 I・II、保育内容演習人間関係 I・II
出身学校 : 文教大学人間科学部 金沢大学大学院教育学研究科
学 位 : 教育学修士
所属学会 : 日本教育心理学会 日本心理学会 日本発達心理学会 日本イメージ心理学会 日本感情心理学会
E-mail : m-suzuki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇幼児期における主体性の評価についての心理学的意義 —教育環境での主体性尺度を発達の観点から検討した総合的な試論—, 金沢学院大学教育研究所紀要第 1 号, pp. 189-202, 2017◇大学生の学習観についての特徴 — 質的研究におけるトライアングレーションの試み —, 文教大学言語と文化研究所紀要, 第 30 号, pp. 131-160, 2018 (共著) ◇初年度大学生における主体性の評定と学期終了時の学習評価との関連 — 主体性を特徴づける学業生活における意識 —, 文教大学人間科学研究, 第 39 号, pp. 173-184, 2018 (共著) ◇幅広い異年齢集団の遊びにおける幼児・児童の主体性と協同性の在り方 — 2018 年「こどもかれっじ」サマースクールを対象とした実践 —, 金沢学院短期大学紀要, 第 17 号, pp. 87-106, 2019

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

①幼児から大学生および社会人における学習観や学習スタイルのあり方と学業生活への効果や影響 (主として、学習を中心とした諸活動における主体性の心理学的意味の考察、および尺度の作成と評価) ②諸活動におけるためらい (躊躇) に作用する要因、ためらい (躊躇) の心理学的意義の検討 (主として、ためらいにおける時間的猶予とマインドワンダリングとの関連)

(Tatsuya Terada)

教授

寺田 達也

人文学研究科担当



日本語 I・II、領域言葉、保育内容演習 言葉 I、卒業研

担当科目 : 究、近・現代文学講読A、近・現代文学演習A、日本近代
文学特論(D) I・II 他

出身学校 : 東京大学

学 位 : 修士(文学)

所属学会 : 日本近代文学 日本文学協会 東京大学国語国文学会

E-mail : terada@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「楽器音のオノマトペ表現の多様性—視覚によるイメージと表現の変化について—」(『金沢学院短期大学紀要』第20号、令和4年3月) ◇「絵本における「語り」の分析—児童文化財への「語り」論の応用—」(『金沢学院短期大学紀要』第18号、令和2年3月) ◇「犬ころポチ」物語の読み聞かせ教材化—児童文化財としての二葉亭四迷「平凡」—」(『金沢学院大学教育研究所紀要』(電子版)第1号、平成29年3月) ◇「二葉亭四迷『小説総論』と没理想論争—想実論を軸として—」(『金沢学院大学紀要 文学・美術編』第15号、平成29年3月) ◇『恋する文学～ほくりく散歩』(共著、北國新聞社、平成26年2月) ◇『北陸 近代文学の舞台を旅して』(共著、北國新聞社、平成24年2月)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本近代文学、二葉亭四迷研究、金沢や北陸の文学、幼児教育(ことば)等

(Wakaba Yoshida)

教授

吉田 若葉



領域表現、保育内容演習表現 I・II、保育内容演習言葉 I・II、保育・教職実践演習(幼稚園)、教材研究 I・II、教育実習指導、保育実習指導 I、地域と子ども I・II、卒業研究

出身学校 : 北陸学院短期大学

学 位 : 短期大学士

所属学会 : 日本保育学会

E-mail : wakaba@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「子どもの音楽表現にみられる解放と共感」(日本保育学研究第36巻第1号) ◇「創造性豊かな保育者養成を目指す授業の工夫(報告3)—子どもと表現 I」におけるマザーグースの活用効果—(北陸学院短期大学紀要第38号) ◇「幼児の発達の姿を保護者と共有するクラス便り—新幼稚園教育要領の視点からの考察—」(金沢学院短期大学紀要第17号) ◇「自然環境と関わる子どもの姿—新幼稚園教育要領の視点からの考察—」(金沢学院短期大学紀要第18号)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

領域及び保育内容の指導法に関する検討(科目間の連携) 異年齢の子ども交流

(Junichi Ooike)

准教授

大池 淳一



プレゼンテーション、簿記入門、簿記応用、簿記実践、コ

担当科目 : コンピュータ会計Ⅰ・Ⅱ、キャリアデザイン

ファイナンシャルプランニング基礎・応用、学修ゼミⅠ

出身学校 : 鳴門教育大学大学院

学 位 : 修士(教育学)、学士(経済学)

所属学会 : 日本教育工学会、地域活性学会

E-mail : oike@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇一般財団法人活育教育財団主催「Next Education Award2022」最優秀賞受賞

修士論文「多様な価値観が存在する社会を生き抜く地域人材の育成に関する研究—商品開発実習を通して—」

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

商業教育を通じて Society5.0 の時代を生き抜く力及び非認知能力の育成について

(Shintaro Kojima)

准教授

児島 新太郎



芸術基礎演習Ⅰ(絵画・工芸)、基礎造形論Ⅰ・Ⅱ、芸術

担当科目 : 応用演習Ⅰ・Ⅱ、近現代美術史、キャリアプランニング 他

出身学校 : 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科絵画専攻

学 位 : 修士(芸術)

所属学会 : 一般社団法人光風会

E-mail : s-kojima@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇2012年 第44回日展 特選受賞

◇2013年 都美セレクション 新鋭美術家2013選抜(東京都美術館)

◇2014年 改組新第1回日展 特選受賞

◇2015年 第101回光風会展 文部科学大臣賞

◇2018年 平成30年度 石川県文化奨励賞

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

絵画制作を通じ、概念を描出する形象表現を研究しています。また、絵画の今日的な新しい表現の可能性についても追求しています。

(Hideko Ando)
准教授 **安藤 秀子**



給食管理論、給食管理実習Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理応用実習、

担当科目 : 献立作成演習、校外実習(給食の運営Ⅰ・Ⅱ)、校外実習
事前・事後指導

出身学校 : 名古屋文理短期大学、青山学院大学

学位 : 修士

所属学会 : 日本栄養士会

E-mail : andou@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇特定給食施設におけるメタボリックシンドローム対策 保健の科学 杏林書院 50巻・5月号、pp331-335、2008年 杏林書院◇勤労者におけるメタボリックシンドローム対策のための教育プログラムの検討 第55回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集、pp267、2008年◇給食施設における社会貢献活動-TFTメニューの導入の評価- 第56回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集、pp303、2009年◇受託給食施設(学校給食)におけるアレルギー食対応の取り組みについて 第61回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集、pp294、2014年◇下流フードサービスSCMのSDGs食品ロス削減方策(共著)、日本IE協会316号◇給食サービスの下流サプライチェーンマネジメントに対する生産管理技法を適用した食品ロス低減方策 青山学院大学大学院経営学研究科修士論文、2020年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

給食サービスの下流サプライチェーンマネジメントに対する生産管理技法を適用した食品ロス低減に関する研究、フードサービス業界で求められる管理栄養士の資質調査

(Manami Yasujima)
准教授 **安嶋 まなみ**



栄養指導論Ⅰ・Ⅱ、栄養指導論実習、学校栄養教育論、栄

担当科目 : 養教育実習、栄養士基礎演習Ⅱ、子どもの食と栄養、教職
実践演習(栄養教諭)

出身学校 : 上越教育大学大学院

学位 : 教育学修士

所属学会 : 日本学校保健学会 日本栄養改善学会

E-mail : yasujima@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「小中学校栄養教諭・学校栄養職員の「食に関する指導」の実態に関する調査研究」
◇「朝食欠食習慣を有する大学生のための栄養教育に関する研究(第1報)」
◇「小・中学校児童生徒の生活習慣と学校給食に関する食意識・職行動の関連について」
◇「栄養学科等学生による高校生を対象とした食育講座-官学協働の食育実践報告(第1報)-」
◇「栄養学科等学生による高校生を対象とした食育講座-官学協働の食育実践報告(第2報)-」
◇「学校給食管理システムによる栄養教諭・学校栄養職員の業務効率化に関する研究」

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

児童・生徒の学校給食の食べ残しに関連する要因の検討

(Makiko Sunayama)

准教授 **砂山 真喜子**



担当科目 : 社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護 I・II、子ども家庭支援論、子ども家庭支援の心理学、保育の心理学、特別支援教育論、子育て支援、保育実習 I・III、保育実習指導 I・III、地域と子ども I・II、卒業研究
出身学校 : 日本社会事業大学
学 位 : 学士(社会学士)
所属学会 : 日本子ども虐待防止学会
E-mail : sunayama@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「社会的養護（児童養護施設）における人材育成に係る要件に関する研究」資生堂社会福祉事業財団, 2016 - 3◇「子ども・子育て支援における市町村の役割と多機関協働に関する一考察：A町における実践を通して」金沢星稜大学人間科学研究 9(2), 13-18, 2016 - 3◇『地域子ども家庭支援の新たなかたち - 児童家庭支援センターが、繋ぎ、紡ぎ、創る地域養育システム』共著(第3章 - 1), 生活書院, 2020◇『社会的養育ソーシャルワークの道標』共著(第3章), 生活書院, 2021◇『特別支援教育と障害児の保育・福祉』共著(第6章), ミネルヴァ書房, 2023

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

保育士の資質向上に向けてのサポートのありかた, 社会的養育における保育士の役割、保護者支援における困難さと解決策にみる保育の専門性、児童家庭支援センターと自治体との連携

(Kayoko Takagi)

特任准教授 **高木 香代子**



担当科目 : 幼児体育、保育内容演習 健康 I・II、領域健康、スポーツ実技VI (ダンス)、保育・教職実践演習 (幼稚園) 他
出身学校 : 金沢大学大学院
学 位 : 教育学修士
所属学会 : 日本体育・スポーツ・健康学会 日本介護福祉学会
E-mail : k-takagi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「大学生の『創作ダンスの授業』に関する研究」金沢学院大学紀要 情報科学、自然科学編、第12号、2014◇「幼児用リズムダンスに関する研究」金沢学院大学紀要 経営・経済・情報科学・自然科学編、第14号、2016 (共著) ◇「幼児用リズムダンスの実践に関する研究 - 年少児を対象として -」金沢学院大学紀要、第16号、2018 (共著) ◇「子どもの運動遊びに関する研究 - 2018年度「こどもかれっじ」を対象として -」金沢学院短期大学紀要、第18号、2020 (共著) ◇「幼児の自由遊びにおける基本動作の数と種類の定期的な活動での変化 - 遊び相手との関わりによって引き出される動作の様式の相違 -」金沢学院短期大学紀要、第19号、2021 (共著)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ダンス及び表現運動に関する研究 子どもの運動遊びに関する研究

(Ayumi Sugimoto)

講師 **杉本 亜由美**



担当科目 : キャリアプランニング、日本語Ⅰ・Ⅱ、日本語表現
秘書総論、学修ゼミⅠ・Ⅱ、ビジネスマナー基礎 他

出身学校 : 成蹊大学大学院文学研究科

学 位 : 修士(文学)

所属学会 :

E-mail : kanaura@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「女性のキャリア形成と企業の取り組みに関する考察」『ビジネス実務論集 36号』
- ◇「短期大学における敬語教育に関する考察」『ビジネス実務論集 37号』

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

キャリア教育 日本語教育

(Kunihiro Tada)

講師 **多田 邦宏**



担当科目 : 健康スポーツⅠ・Ⅱ、スポーツ科学

出身学校 : 国士舘大学

学 位 : 体育学士

所属学会 :

E-mail : k-tada@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

著書

- ◇「指導教本」(ソフトボール編)単著 平成8年3月(埼玉県教育委員会) ◇「みるみる上達するソフトボール」～神村学園の確実に強くなる練習法～ 単著 平成27年9月(ティアンドエイチ社)

海外派遣

- ◇国際スポーツ専門家長期派遣事業、派遣専門家(ソフトボールコーチ) 平成12年9月～平成13年3月

国体関係

- ◇平成6年、8年～10年 埼玉県 国体少年女子コーチ ◇平成11年 埼玉県 国体少年女子監督 ◇平成21年～24年 徳島県 国体成年女子監督 ◇平成27年～29年 鹿児島県 国体少年女子監督 ◇令和2年～ 石川県 国体成年女子監督

主たる指導実績(ソフトボール)

- ◇◇平成25年 神村学園高等部 全国高校総体ベスト16 ◇平成26年 同上 全国高校総体優勝 ◇平成27年 同上 全国高校総体出場 ◇平成28年 同上 全国高校選抜大会3位、全国高校総体出場、国民体育大会準優勝 ◇平成29年 同上 全国高校選抜大会ベスト16、全国私学大会準優勝、全国高校総体5位 ◇平成30年 同上 全国高校選抜大会3位 ◇令和元年・2年 全日本大学選手権大会3位 ◇令和4年 全日本大学選手権大会優勝

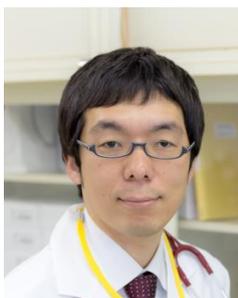
II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ソフトボールにおけるトレーニング理論

(Yudai Hirayama)

講師

平山 雄大



臨床栄養学実習、応用栄養学実習、栄養士総合演習、

担当科目 : 校外実習（給食の運営Ⅰ・Ⅱ）、校外実習事前・事後指導、情報処理基礎Ⅰ・Ⅱ、キャリアプランニング

出身学校 : 名古屋学芸大学大学院

学位 : 修士（栄養科学）

所属学会 : 日本健康・栄養システム学会 日本栄養士会

E-mail : hirayama@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇2017年1月末まで、社会医療法人慈泉会相澤病院栄養科栄養管理部門にて勤務。栄養サポートチーム専従者を担当。また同病院の褥瘡対策委員会に所属。

◇「食形態マップ」による他職種・他施設との情報共有の有効性と今後の課題について（2023）

◇成績評価と学生の自己評価によるカリキュラムマップの整合性の検討-評価指標を構成している科目によって合成された得点に果たして信頼性はあるのか-（2023）

◇栄養科学シリーズNEXT 臨床栄養学実習第3版（一部執筆）（2023）

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

「栄養管理」に関する研究

「食べる力」に関する研究

臨床栄養師（日本健康・栄養システム学会認定）

石川県七尾市「食力の会」所属

(Tomomi Minami)

講師

南 友美



担当科目 : 調理学実習Ⅱ・Ⅲ、応用栄養学実習、校外実習（給食の運営Ⅰ・Ⅱ）

出身学校 : 金沢女子短期大学

学位 : 学士（教養）

所属学会 : 日本栄養士会 石川県栄養士会

E-mail : to-minami@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ライフステージごとの食生活改善に関する研究◇高齢者福祉施設での誤嚥防止のための嚥下食・誤嚥性肺炎予防の食事◇栄養ケアマネジメントでの低栄養改善・予防の取り組み

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

◇歴史から見る食文化の成り立ち◇多様化する食に対応する栄養士・管理栄養士のキャリアビジョン

(Rumi Otake)

講師 **大竹 留美**



担当科目 : 保育・教育課程論、保育者論、乳児保育Ⅰ・Ⅱ、地域と子育て支援、卒業研究
出身学校 : 神戸親和女子大学大学院
学 位 : 修士(教育学)
所属学会 : 日本保育学会、日本保育者養成教育学会、日本乳幼児教育・保育者養成学会
E-mail :

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「保育実習指導」の研究動向に関する一考察: CiNii 掲載論文のタイトルに対するテキストマイニングを用いて
- ◇保育内容「表現」指導法に関する一考察 ―グループワークによる劇あそびづくりを通して―
- ◇保育における幼児理解のあり方 ―幼児理解の実態分析―
- ◇子どもに寄り添うための基本的な保育実践-幼児理解の視点抽出の試み-
- ◇実践にみる保育内容「環境」の一考察

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

保育・教育実習における学びの分析

(Yoshie Bouda)

講師 **棒田 美江**



担当科目 : 音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育内容演習 表現Ⅰ・Ⅱ、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教育実習指導
出身学校 : 仁愛女子短期大学
学 位 : 短期大学士
所属学会 : 日本ピアノ教育連盟 日本音楽教育学会
E-mail : y-bouda@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ピアノリサイタル 1990年、1992年、2000年 ◇モーツァルトピアノコンツェルト第20番ピアノソロ 1997年(共演:金沢室内管弦楽団) ◇ジュール・ド・ショパン〜ショパンの日〜2010年 ◇バッハブランデンブルグコンツェルト第5番 チェンバロソロ 2012年、2013年(共演:モーツァルトアカデミー室内管弦楽団、2019年(共演:金沢モダンコンソート) ◇ジョイントコンサート〜ロマン派のひととき〜2011年 ◇親子で楽しむ名曲コンサート 2000年〜2020年 ◇ラ・フォル・ジュルネ金沢 2010年〜2016年、『保育者養成課程における弾き歌い指導法の研究』(単著)金沢学院短期大学紀要第18号 2020年 ◇『創造的音楽活動におけるイメージの深まりと表現についての一考察』(単著)金沢学院短期大学紀要第19号 2021年 ◇『楽器音のオノマトペ表現の多様性』(共著)金沢学院短期大学紀要第20号 2022年 ◇全日本ピアノコンクール 2022 全国大会一般プロ部門 6位入賞

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ピアノ演奏表現 幼児期の音楽表現活動

(Akari Hashitaka)

助教 **橋高 朱里**



健康スポーツ I, II、コーチング演習 I・II、学修ゼミ

担当科目 : I, II, III、キャリアデザイン、キャリアプランニング、FSP
講座、スポーツトレーナー演習

出身学校 : 金沢学院大学大学院

学位 : スポーツ健康学 (修士)

所属学会 : 日本武道学会、日本体育・スポーツ・健康学会、北陸
スポーツ・体育学会

E-mail : hasitaka@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇スポーツ専攻学生におけるサプリメントに関する意識調査、金沢学院短期大学紀要

◇資格

- ・公益財団法人全日本柔道連盟公認Cライセンス審判員
- ・公益財団法人全日本柔道連盟公認柔道指導者B指導員
- ・公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

スポーツ専攻学生におけるサプリメント使用状況
ジュニア期におけるコーチング等

(Hisami Shirae)

助教 **白江 寿美**



担当科目 : 領域表現、保育内容演習表現 I・II、領域環境、保育
内容演習環境 I・II、保育内容演習言葉 I・II、保育
内容演習人間関係 I・II、保育・教職実践演習 (幼稚園)、
教材研究 I・II、卒業研究 他

出身学校 : 北陸学院短期大学

学位 : 短期大学士

所属学会 : 日本保育学会

E-mail : shirae@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇身近な自然環境を取り入れた表現活動—4歳児の活動—/金沢学院短期大学紀要第18号(通関
巻61巻)掲載頁: pp119-134◇「幼児の発達の姿を保護者と共有する」クラス便り—新幼稚園教
育要領の視点からの考察—/金沢学院短期大学紀要第16号(通関巻59巻)掲載頁: pp103~
122◇幅広い異年齢集団の遊びにおける幼児・児童の主体性と協同性の在り方—2018年「こども
かれっじ」サマースクールを対象とした実践—/金沢学院短期大学紀要第17号(通関巻60巻)
掲載頁: pp87~106◇竹の生長を教材として展開した実践事例から読み解く子どもの姿—5歳児
の活動—/金沢学院短期大学紀要第17号(通関巻60巻)掲載頁: pp123~136

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

異年齢児の交わり、幼児の表現

大学院担当教員

	教授	准教授	講師	助教
人文学研究科	秋山 稔 石崎 建治 小里 千寿 佐田東 彰 薮 際子 ○水洞 幸夫 末松 智 鈴木 賢男 寺田 達也 寺田 智美 中崎 崇志 中島 彰史 坂東 貴夫 本多 俊彦 前川 浩子	上田外史彦 佐々木 聡 松村祐香里 室橋 弘人	大上 真礼 黒崎 周一 出口 誠 戸根比呂子	
経営情報学研究科	石川 温 *M*D 飯田 栄治 *M 大貫 裕二 *M*D 大野 尚弘 *M*D 奥井めぐみ *M*D 小田圭一郎 *M*D 桑野 裕昭 *M*D 佐藤 淳 *M*D 田中 晴人 *M*D 千葉 俊徳 *M*D 豊田 欣吾 *M*D 根本 博 *M*D 長谷川秀司 *M*D 濱屋 敏 *M*D ○藤井 秀樹 *M*D	中村 直行 *M 渡邊 誠士 *M*D 藤本 祥二 *M		
スポーツ健康学研究科	外山 寛 福井 卓也 ○藤原 勝夫 丸山 章子 渡辺 涼子 渡辺 直勇	清田 直恵	菊政 俊平	

○：研究科長

(五十音順)

*M：博士前期課程担当教員

*D：博士後期課程担当教員

専任教員索引 (五十音順)

◆所属学部 文学部：文学 教育学部：教育 経済学部：経済 経済情報学部：経済情報
芸術学部：芸術 スポーツ科学部：スポーツ 栄養学部：栄養 基礎教育機構：基礎 短期大学：短大

氏名	所属学部	頁	氏名	所属学部	頁	氏名	所属学部	頁	氏名	所属学部	頁
秋山 稔	文学	1	小西 尚之	経済情報	44	野寺 巧寛	スポーツ	62	山口 由美子	教育	27
荒川 昭広	芸術	47	小林 勝義	栄養	66	橋高 朱里	短大	88	山本 武	栄養	71
安藤 秀子	短大	83	小平 豊彦	教育	25	長谷川 秀司	経済	33	吉田 一誠	芸術	52
飯田 栄治	芸術	47	佐田東 彰	教育	20	畑山 千春	栄養	68	吉田 若葉	短大	81
飯田 範子	栄養	65	佐々木 圭一	経済情報	41	羽鳥 好之	文学	9	米川 泉子	教育	25
石川 温	経済情報	40	佐々木 聡	文学	12	羽場 文彦	芸術	51	米澤 順一	経済	36
石崎 建治	文学	7	佐藤 淳	経済	31	濱屋 敏	経済	35	渡邊 琢夫	栄養	69
板垣 真任	基礎	74	部 際子	文学	7	林 直之	栄養	68	渡辺 直勇	スポーツ	58
市島 桜魚	芸術	48	土農 力	基礎	73	原田 澄子	短大	80	渡邊 誠士	経済	37
一色 貴史	スポーツ	60	嶋村 貢志	基礎	74	張江 洋次朗	経済情報	45	渡辺 涼子	スポーツ	57
上田 外史彦	文学	11	白江 寿美	短大	88	坂東 貴夫	文学	10			
上野 学	経済	38	水洞 幸夫	文学	2	平方 裕久	経済	36			
枝元 香菜子	教育	27	末松 智	芸術	48	平木 孝志	芸術	49			
大池 淳一	短大	82	杉本 亜由美	短大	85	平山 雄大	短大	86			
大上 真礼	文学	14	鈴木 賢男	短大	80	広根 礼子	芸術	49			
太田 康介	スポーツ	61	鈴木 三枝	栄養	67	福井 卓也	スポーツ	56			
大竹 留美	短大	87	砂山 真喜子	短大	84	藤居 真路	教育	23			
大西 孝司	短大	79	高 賢一	スポーツ	55	藤井 徳子	教育	24			
大貫 裕二	経済	30	高木 香代子	短大	84	藤井 秀樹	経済	3			
大野 尚弘	経済	33	高他 毅	短大	4	藤本 祥二	経済情報	42			
大谷 千晴	栄養	70	高橋 栄一	文学	15	藤本 索子	スポーツ	63			
小形 優人	経済情報	44	武石 健哉	スポーツ	59	藤原 勝夫	スポーツ	56			
奥井 めぐみ	経済	30	多田 邦宏	短大	85	棒田 美江	短大	87			
奥泉 敦司	教育	22	多田 孝志	教育	20	本多 俊彦	文学	10			
小嶋 祐伺郎	教育	19	田中 晴人	経済	34	本田 正史	芸術	52			
小田 圭一郎	経済	31	田中 良巳	経済情報	42	前川 浩子	文学	11			
笠間 弘美	教育	19	田邊 俊治	教育	21	松井 良雄	短大	79			
加藤 謙一	芸術	50	谷口 卓	教育	23	松田 聡浩	経済情報	43			
加藤 里紗	経済	37	千葉 俊徳	経済	34	松永 龍太郎	芸術	53			
河畑 則文	経済情報	43	出口 誠	文学	15	松村 祐香里	文学	13			
川村 美笑子	栄養	65	寺田 達也	短大	81	丸山 章子	スポーツ	57			
菊池 英慈	文学	12	寺田 智美	文学	8	水橋 雄介	文学	17			
菊政 俊平	スポーツ	59	栃原 華子	教育	28	南 友美	短大	86			
北島 孟	スポーツ	61	戸根 比呂子	文学	16	宮永 隆一朗	基礎	75			
木戸 康博	栄養	66	外山 寛	スポーツ	55	宮本 佳代子	栄養	69			
木村 昭雄	教育	22	豊田 欣吾	経済	32	向田 識弘	教育	26			
清田 直恵	スポーツ	58	中川 恵理子	基礎	75	村上 智	短大	78			
グラッシ・リチャード	文学	17	中崎 崇志	文学	8	村谷 聡志	芸術	53			
黒崎 周一	文学	14	中島 彰史	文学	9	村松 麻里	教育	24			
桑野 裕昭	経済情報	40	中妻 結	文学	16	室橋 弘人	文学	13			
ゴータム ヒスマ・ブラサド	経済情報	41	中村 英里子	スポーツ	62	森 舞	教育	26			
小里 千寿	短大	78	中村 晋也	基礎	73	八木 かなえ	スポーツ	63			
越田 久文	芸術	51	中村 直行	経済	35	安井 孝志	スポーツ	60			
児島 新太郎	短大	82	七尾 由美子	栄養	67	安嶋 まなみ	短大	83			
児島 記代	経済	38	西村 栄恵	栄養	70	柳橋 広司	芸術	50			
後藤 弘光	経済情報	45	根本 博	経済	32	山内 隆之	教育	21			